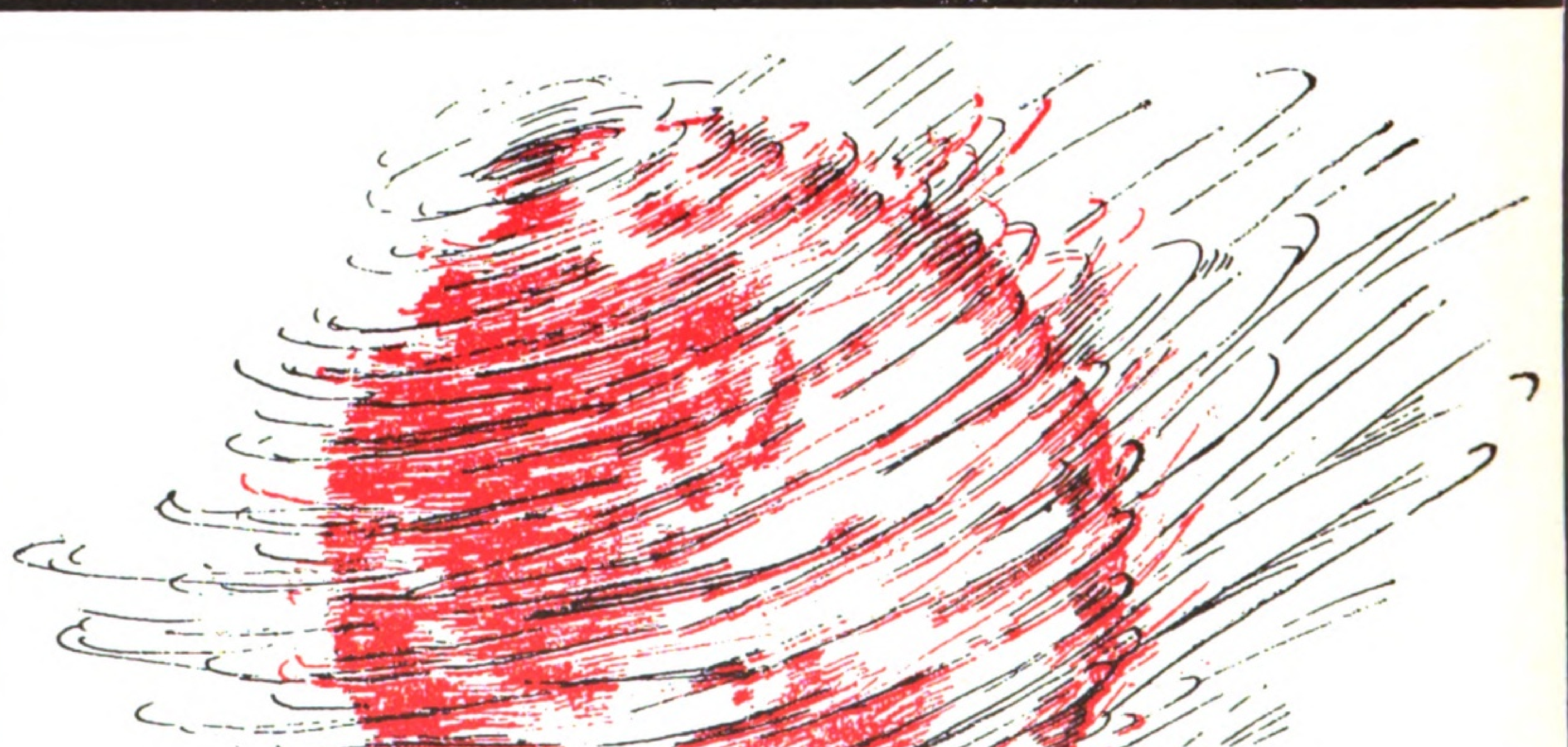
戰鬪雜誌

進め

第二年第一號　大正十三年一月

社會主義と愛國……北原龍雄
科學的社會主義者の空想……新井友三
社會運動に投じた動機
食糧人夫……横田忠夫
社會民主々義的政治運動に對し共産主義者は何を爲すべきか……山川均、柴耕介、北原龍雄、田口運藏、山本小三郎、今吉一雄、平野學、羽生三七・谷口善太郎
泰然として殺さるゝ戰術……
檄する書十篇（2）……横田忠夫、岡陽之助、新居格、竹下信一
南桑聯合會の『政治運動』……佐々木隆太郎
生命の換算……
赤穗……
時評……同人



定價一部十錢

政治運動研究の會を組織したい

——同意の人はスグ申込んで下さい——

無産階級の政治運動は、府の普選聲明に促されて、曲りなりにも現實の問題となつた。我々の政治運動に關する考察は一歩進んで、如何にして最も有効にそれを行ふかの問題に移らなければならぬ時となつた。即ち、理論的研究の方面では政治形態の問題とか、政策内容の問題など、事實的研究の方面では、政治運動に關係ある、經濟上、社會上、心理上の諸實情とか、他の政治的勢力と無産階級との錯綜など、何れも徹底して研究を仕上げなければならぬ。

殊に私等は、階級的政治運動の主要場面は街頭にあると信じて居る。此の考へが否定せらるべきものでない限り、街頭政治行動の、發生と發展との過程や、それを組織化し恒常化する手段樣式など、こゝにも重要なる研究項目は横はつてゐる。

是等の、研究を進める爲に全國に渉つて一つの協同團體を作りたい。仕組みや仕事は大體左の如きものを考へてゐる。

一、誰でも會員となれる。

二、會員の數人集れる所に細胞を組織する。

會員と細胞とがすべての仕事の主體である

三、中央に事務係を置く。

事務係は當分僕等でやる

四、會員及び細胞は研究をすべき問題を考へそれを事務係に通信する。

これが研究上の活動の始まりである

五、事務係はそれを整理して各會員及び細　に送る。

六、會員及び細胞は受取つた問題に對し、資料を集めたり意見を定めたりして事務係に送り返す。

七、事務係はそれを又整理して、こゝに一段の研究が遂げられる。之を各會員及び細胞に報告する。

八、右の方法を絶へず反覆して行く、

此の規則のやうなものは、今後やつてゐる内に自由に變化して行くであらう、通信費を各員の負擔とすれば、別に會費は要らない、

無産階級の政治運動は、普選の音響に驚いて飛び出した政黨粗製濫造などの他に、もつと底力のこもつた行き方がなければならぬ、そうして十年位は、後の事もはつきり考慮に入れた方針の下に進まなければならぬ、經濟運動は嘗てブローカーの喰物になつた政治運動を、オッポウチュニストの喰物にしてはならぬ、併し、それ等の爲めには、先づ政治運動に關し根本的なる諸概念を確立する必要があるがその爲めには何と言つても完全な研究を通過しなくてはならぬ、

此のやうな仕事は、實はもつと早くから着手してゐなければならなかつた、今となつては、一生懸命急速力で進むの他はない、

用意の諸君は至急申込んで下さい四五十人も出來たらスグ始める、

假事務所　大阪進め社内

世話人　北原龍雄　岡陽之助　横田忠夫

地方の座談會を復活する

地方で小さな集りを開き、それへ申込みに應じて進め社から人を送る計畫を夏の初めに發表した、十四五の申込があつて、七月と八月とにその内の五六を果した、九月後の約束にしたのもあつたが、あの地震がやつて來た、

雜誌もやつと足取りを立て直したし農村も大分ヒマになつたからあの計畫を復活したい、それも時節柄、政治運動に關する研究を中心として行かうと思ふ、ここからも言ふて來て見て下さい、出來るだけ應じる、進め社は人材大いに乏しいから、外部に應援して貰ふ約束をしてある、農民運動社や建設者とも連絡がある、

經費は、往復の旅費はこつちで何とかする、次に所をそちらで工夫してくれゝばいゝ。

誌代催促

地震後の經營難を考へてくれ

地震に依つて雜誌經營の困難は數倍化した。それは恐らく誰だつて—少しは馬鹿でも—想像が付くだらうと思ふ、それで、此の際特に、未だ誌代を拂つてくれない人、前金の既に切れ或は切れかゝつて居る人の、良心と同情心とに訴へたい、その上、若し無名の英雄があらば拂ひ越しの人も更に幾分の前金を貸して貰ひたいものだ、兎に角誌代を頼む、至急、至急誌代を頼む—之を年頭の賀詞に代ゆ—

進め社同人一同

講演會や講習會も開きたい

雜誌の方が少し手がスケば講演會や講習會も開く積りで、一寸準備も進めてゐる。關西の方では、學術的な凝つた講習會が、大學以外では殆んど行はれて居ないから此の冬中に大阪でやつて見る積りである。

講演會は、もつと手輕にやれる之も地方から申込んでくれる人があれば考へて見やう。講演會も當分中心の題を政治運動本位で行かうと考へて居る。

進め
社會主義の戰闘雜誌 ◆ 第二年第一號 大正十三年一月

宣言

私等は社會主義の露骨なる主張を一歩も譲歩しませぬ。此の思想は、地震で搖ひだり、フセンで崩れたりする程、不安定なものではありません。そうして此の思想が、大衆自身の思想こなる日の必ず來るであらう事を確信します。

政治の方面では××××の突發的××、經濟の方面では資本私有こ生産私營この××、それが私等の考ふる社會主義思想の主要成案であります。私等は之を露骨に提唱します。

たゞ、説明様式の修正——その一分子こしての運動形態や生活態度の修正——には努力しなければなりませぬ。而しそれは勿論、思想の中心生命を傷けない範圍に於てゞあります。「進め」は終始一貫、此の信念を以て行路を決定する事を宣言します。

泰然こして殺さるゝ戰術

△共産主義運動は順風の湖面を帆走するやうな生優しいものではない。何しろ現社會の最大勢力を前に廻しての闘爭である。人間の企てる仕事の中で、最も困難な最も複雜なものだこ考へなければならぬ。力が勿論一番大切だが、何れこつちの力は敵より弱い。随つて運動には、策略や駈け引が必要だ。それが謂ふ所の戰術である。戰術に成功してこそ、運動が所期の目的を遂げる事も出來るし、最小の力を費して最大の効果を收める事も望まるゝ。

△併しながら、戰術は運動に取つて第二義である。運動の精神、運動の理想こそ、第一義的重要さを含む。精神や理想を失はないで行つて、始めて社會運動は偉大な創造力を持つ事が出來る。精神こ思想が、謂はゞ運動の生命である。戰術は生命力を有効に働かさしむべき、外部的條件に過ぎぬこも見る事が出來る。

△そこで、戰術が如何に重要であるこは言へ、その爲めに、運動の生命を傷けてはならぬ。それは誰だつて異存の無い自明の理窟であるが、現實の問題に當面しては、此の自明の理が時々蹂躙せられやうこする。

△その原因は、大體二つあるこ思ふ。第一は錯誤に因るもので、第二は欺瞞に基くものだ。即ち巧妙な戰術だこ思つてやつた仕事が測らずも許すべからざる運動精神の冒瀆こなる場合こ、運動の生命破壞をチャンこ承知してゐながら、戰術の名にかくれて人目を欺かうこ言ふ場合この二つである。

△第二の場合は、主こして、共産主義を裝ふて、何等かの意味で此の思想を利用せうこする者の仕事である。これが最も警戒を要する。併しながら、彼等の絕對に取り得ない戰術がたゞ一つある。それは捨身になつて行く戰術だ。勝敗を眼中に置かず、唯一つの戰闘の情意を燃えたぎらして、力の餘つた敵にブツ付かる戰術だ。更に若し、手を縛られ口を緘せられ、一切の闘爭が許されない場合、而も敵の壓力は刻々迫つて來るならば、泰然こして殺される戰術だ。

△我等の敵は强大である。我等は何時一切の戰闘力を奪はるゝやも知れぬ。南葛の九人が縛られて、銃劍の前へ立たされたやうな場面に、何時我々は引き据えられやうこも知れぬ。その時、途はたゞ二つある。降服するか殺されるかだ。願はくば泰然こして殺されたい。これが、最善の最大の、最巧妙の戰術だ。我等はその了簡を据えてのみ、戰術の語を用ひたいものだ。

△リベッ化もデモッ化も、それが眞に戰術ならば、假令誤つてもテクニックの上の失敗だけの話だ。たゞ、我等が眞に共産主義の精神こ理想こを愛するならば、如何なる戰術を行使するにせよ、本當のデモクラットやリベラリストこ同化してはならぬ。而も、此の同化、極て危險なる此の同化を避け得る唯一の途は、我等の戰術の中には、泰然こして殺さるゝ戰術も數えて置く事だ。

△孤立は避けたい。併し精神こ理想は孤立を脱するよりも重い。我等の思想が時間を超越して發展し得ないは明かである限り、その時が未だ來て居ないこすれば、一切の戰術が皆敗れて、淋しい孤立が當分續くかも知れない。その時、もし敵の急壓が殺倒して來るならば、我等の立場はたゞ一つあるのみ、それは泰然こして殺さるゝ事の他、選ぶべき戰術がない。

△身を殺して仁を爲すこ、古人は面白い事を言つてゐる。仁の語が古臭くてイヤだこすれば、身を殺してセオリーを守るでいゝ。孤守、闘守、死守、それで敗るゝ時は、せめて泰然こして殺されたいものだ!。 一二、一六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時評

當面の問題としての普選

　プロレタリア運動には殆んど每日のやうに、生きた問題、當面の諸問題が、ひしひしとぶつかつて來る。經濟鬪爭にのみ沒頭してゐるのみで事が足りるとは誰れも思はない。經濟鬪爭、なる程それは大切な眼目であるかも知れないがそれ許りが全部とは思へない。昨年の末頃からプロレタリアの政治運動が、大分やかましくなり、政治運動の宣傳が、或はあまりに濫汎すぎて、ともすればブルジョア政黨のそれまでも捲き込まれやうとする形勢のなかつたではないかも知れないが、これまで、全然顧みられなかつたところで、政治運動に眼醒めたことは無意味なことでは確かになかつた。岡陽之助君にいはすれば、これまでのプロレタリアの政治運動は、いはゆる政治運動への第一步だつた。これからが共產主義の政治運動に入るのだ。入られればならぬのだ。影も形もなかつたといへるプロレタリア運動が、その第一步から直ちに共產主義的政治運動へ飛躍し得なかつたことは、事實上餘儀なかつたことゝ思ふ。どちらかといへばサンヂカリズム萬能といつた日本の解放運動だ—表面はどういふ名儀の運動でも—それらの眼からいへば片腹いたい政治運動などを眞向から言ひ切るだけでも、それだけでも可なりの苦難だつたと思ふ。

　僕はプロレタリア運動と政治運動は切離されぬことを肯定し、更らに、その政治運動なるものが、漠然たる、我らが見るところの在來の政黨運動とは別個な、共產主義的運動の見地から割出さればならぬところの政治運動として、こんどの普選問題に接したく思ふ。

　元來これまで政治的らしい運動は、全然取るに足らぬことにして忘却されて來たか乃至は高級批判であつさりと片付けられて來たそれはいゝとして現在の僕らにとつて、反議會利用主義者には鬪爭の心理を理解せぬとか、潔癖すぎるかいふ、そうであるそうでないの感情問題は意味をなさなくなるたゞ僕らの實際的に考究しなくてはならぬ點は學理上の問答ではなく、刻々と動いてゐる流れ、大勢の赴くところをどう見ればなければならぬといふ當面の問題である

　僕らは議會萬能主義者ではない少くも過去に於て、また、現在に於ても無論然りであるが、議會改良主義に反對して來た僕らの間には、パアリアメンタリズム萬能の如何に危險なる迂回運動であることの事實を痛擊しない仲間は無かつた筈である。我々はそういふ思想の旺んであつた時代、猛烈なそれが反對者であつた。而して、今後ともそうであることに變りがないのである。しかしながら、僕らはこれを年代についていふならば大正八年頃のそれと、今日の觀念のそこに非常な差異のあることを知るものである。少くも議會主義の如何に恃むに足らぬことを直接に知らしむるためにも、今日になつて議會侵入の無意味でないと思はるゝものである。更らに、これを地方運動の進展から見ても、普選問題を全然無視することは出來ない。日本のやうに工業地帶のむしろどつちかといへば、大都市に局限されてゐる國に於て、しかも農民運動と青年運動等が漸く全國的に芽生へんとする今日、工場勞働者の多い地方はいざ知らず、地方運動は地方の民衆の最も感興の注點となつてゐる普選運動を無　してそれらの民衆と接觸することは、ずゐ分困難なことだと思ふ地方運動のともすれば行詰りの狀態におち入るのはそうした民衆と接觸の度合が薄いせいであると思ふ。われわれはあまりに都會の運動のみに沒頭して切角芽生期にある地方の運動を輕視してゐはしないだらうか。三四年前の普選熱の空氣ならいざ知らず、この頃の鬪士が議會利用策と改良主義とを混同する同志は先づない筈だ。これは僕の樂觀かも知れないが、今頃になつて、まだ、改良主義的パアリアメンタリズムを高唱し過信するものはない筈だ。いや、そういつた不安が一掃される雰圍氣であればこそ、われわれは思切つて議會侵入說を唱へるので、議席を多くじめることなどは一つも問題ではないのである。我々はイギリスの總選擧で勞働黨が百八十といふ多數議員を示したといつたところで、輕々しくその事實から押して革命來を信じ得ないことは反議會主義者の思ふところと何ら變りがない。

　しからば、議會に同志を送ることが直接どれ程の効果を擧げ得るかといふ段になるが、或は多くの期待する程のことがないかも知れない。第一あまりの期待を持つそのことが、無意味なことだ。期待するといふそのことがすでに議會そのものを、過信することなのでわれわれは期待するせぬの點にいたつては、むしろ反議會主義者ほど議會主義を重要視してない。が少くもプロレタリアの立場をプロレタリアの立場から明瞭にすることだけは出來やう。それがいろんな場合無意味なことゝのみに思はれない。さてどういふ同志を議場に送るかといふことになるが、それは當分個人の自由意志にもよることだらうが、外國などで、よく入獄中の犧牲者などを立候補者にしてゐることなどよくある例だが、これなど中々有意義なことだと思ふ。

　さりとて、議會利用策に於ても決して油斷のならぬ危險の伴ふことは想像されぬものではない。當選せる議員の無節制、無自覺による行動はその危險は決して少くないのである。少くも共產主義議員は黨の公選である以上、ブルジョア政黨以上に黨則を遵守せねばならぬ。規律は絕對的に個人意志の上にあられればならぬことなどは最も大切な點だらう。黨は共產議員の言論も行動を嚴重に監視しなければならぬことはただに議會に於ける場合許りではない。不幸にして日本には共產黨といふやうな斷乎たる黨の意志とプログラムをもつたそういふものゝ存在を許されてないのだから、この點は非常に厄介な點だ。そこらを一步踏みあやまると可なり危險なことになると思ふ。

　日本の共產主義運動は第何期に入つたのか知らぬが、大分いはゆる方向轉換の實行期にあるらしい形成だ。單に議會運動のみに止まらず、この際、外部の運動が一般化されゝばされる程內部の規律が大切だと思ふ。一二年前は規律だ規律だといつたのが、一つのモツトーだつた。今ではそれが少し忘れられ氣味だ。今こそそれを嚴守すべき時だと思ふ。外へ運動がのびればのびる程內をしつかりしめてかゝらねばならぬと思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

何しろ日本には公然の共產黨がないことも何かについて不便なと同時に、はつきりしたプログラムが公にされてないことがいろんな齟齬を直接に生む根本原因だ。共產主義者が黨の意志を最密に遵守し代表する條件に於て、普選は決して危險とは思はれない(小牧近江)

山本内閣の「戰術」

「山本内閣は、成立の當初、政黨を輕視し、政派を蔑視し、腐敗政黨のへロ／＼矢は鎧袖一觸の價値だになしと放語し、有象無象の黨人輩は、卓然たる超越内閣の光輝を仰いで、はつかねづみの如く忽ち屏息するものと心得、政黨何物だと言つた態度で、世の中に政黨程つまらぬものはないやうに吹聽して居たが、愈々議會も召集され、政黨の敵を向ふに廻し、議政壇上堂々政策の雌雄を決せんとする間際になると、途に怯氣づいて腰を拔かし、つい此の間の口幅つたい自分をも忘れた果て、連りに對手の「諒解」を求むるに汲々たり、政黨政派とさへ見れば誰彼の區別なしに諂射知として所謂「誠意」を披瀝し廻つて居る。」

之は朝日新聞の社説である。オッポチユニストはそれを讀んで謂ふだらう「戰術だ々々大臣になる人は戰術がうまい」と。

議會の三馬鹿

小川平吉に依れば、共產國の代表者が資本主義國たる日本に滯在した事は、許すべからざる曲事だそうな。それなら、共和國の代表者が帝國たる日本に來てゐる事は更に惡くはないか。米國(異國)黒船を、浦賀に迎へて以來、六十年間の内務大臣は全部が後藤新平と同樣、平公乃至梅毒ドクツクの彈劾を受けなければならない。

若槻禮次郎のタンカに曰く、微發合はさながら過激派の如しと。全くその通りだ。過激派と言ふものは、微發合の如く反資本家的で合社會的のものだ。金持ちから見て最も危險な思想で、社會から見て最も妥當な、最も結構なものだ。過激派とさへ言へば、惡いもの、比喩になると思ふて居る馬鹿の口から、タマには皮肉な眞理が吐かれる。

こう言ふ、上下兩院の馬鹿を相手に、夢中になつて「戰術」に汗を流す政府、彼此合せて臨時議會の三馬鹿とでも言ふか。

猫が猫をかぶる

一

現内閣の面目は普選斷行に懸るとせられる。此標語は民衆を煽かし、我が無產階級政治運動も、その爲めは一段と活氣を帶びて來たもの、如くである。曾て尻目にかけられてゐたブルジョア議會がその注目の的となつて居り、議會行動が俄かに騷がれだした模樣である。かくて一方に議會行動以外の政治行動などには全く意義をなさぬと主張するコンミユニストが出るかと思へば、早くも、形勢を悟つて背服を紋附に着代へて代議士菜々の前座をつとめ樣とする革命勞働者が現はれる。また一方には、社會主義思想を抱くの故に父母を捨て家を追はれつ、階級鬪爭を續けて來た無產青年運動の鬪士が、いつの間にか、革新倶樂部邊りのノレンを分けて貰つて地方の青年政治家となりすましたりする。

私等も勿論、リベラリズム(若しくは社會民主々義)的の政治運動を必然の勢と觀る。その運動に多くの利用價値を認め、方向を一にする場合には宜しく之と力を合すべきを有効と信ずる。されども、その爲に、私等は何故にリベラリストと化し、デモクラツトと變らねばならないのか。何故に、風車の如く風の吹き具合で、その主義を東西にも南北にも向け更へねばならないのか。

二

新聞では今、山本内閣の辭職や改造の話題が賑つてゐる。さなきだに「普選」もどうやらあぶなつかしく見えかけた矢先、此分では、「即時斷行」など或は思ひもよらぬことかも知れぬ。さうなれば、無產階級政治運動はどうなるか。成程、普選實施の豫想に依つて涌き上つた泡の樣な政治運動や、議會行動の外に政治運動を考へ得ぬ樣な思想根據に立てるそれ等は、そのまゝ消滅するかも知らぬ。乍而無產階級政治運動の本流は「普選」の出沒に依つて、生死するものではない。議會の有無によつて、明滅するものではない。勞働大衆は議會外に於いても、その政治的意志の表示し得る唯一の形式を有つてゐるのである。否、かへつてその中にこそ私等政治に運動の本流が觀られねばならぬと考ふる。而して此の邊に、私等が、無產階級の階級的政治運動について稍深く考察すべき題目がひそんではゐまいか。考察を忘り、所謂政治氣分に浮かされることは私等のなすべきことではない。私等が、かの無反省に「リベッ化」する傾向を憂とするは、實にこれがためである。

三

「猫をかぶる」といふ。表面頗る穩當に出で中身の強さを意味する。私等の運動が、合法、非合法、機に望んで宜しく之を採らねばならぬ以上、猫をかぶるもまた戰術上やむを得ぬ事とする。しかし猫をかぶるものは猫であつてはならぬ。然るに中身そのものが既に「猫」の癖に、「戰術として猫をかぶつてゐる」とほざく。曾て、アナが流行すればバクーニンをかぶり、サンヂカが賣れ行きよしと見れば、靑服をかぶつたのは此の手合であつた。けだし東西古今、日和見主義者の常套手段か。(岡陽之助)

街上寒風

○

師走、寒風、ふところまで寒い時、街上頻りに號外の鈴。膽を寒からしむ。

○

好機逸すべからずと政友會の狸共躍鼓を鳴らして、山本内閣を攻める。狐狸荒野におごる樣、資本主義の末路には絶好の一幅。

○

さういへば、件を咬はいて行つた奴まであつた。

○

後藤新平へ、社會主義者だからとて、ゴロツキ闖あばれ込む。そんな六ケ敷しいことを云はずに、一杯呑みてはんだと云へ。

○

婚姻運動は結構。だが、婚姻のため命はなくなつた女をどうして救ふ。但し、それからさきの運動へは其筋の目が光るとか。

○

「天災」で焼け出されてやつとバラックを建てれば、今度は地主家主に追ひ立てを食ふ。これ「人災」

○

「人災」「絶滅」は危險思想、まかりならぬとこれぢやプロは助からぬ

○

例の甘粕泣言を娑婆へもらし、染々人間が嫌になりましたと。遠慮はいらぬ、得意の柔道の手で、自分の首を締めてみちやどうだ。國家のためだ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會主義と愛國

—愛國者に質問す—

北原龍雄

一

世には美しい愛國の名に隠れて野心を遂げやうと企てたり、私慾を滿たそうと計つたりする者が尠くない。されどこゝに呼びかけて答を求むるは、衷心國の事を憂ひつゝある人に對してゞある。

自ら省みて、眞に我が至情國を愛すと信ずる諸君に、此の一章の心讀を願ひたいものである。

一體、愛國とは、國土の自然物を愛する意味でなくて、國民を愛する意味である。尤も山河草木に對しても一片の愛着は覺えるであらうが、それは附加的のものであつて、愛國者の精神や誇負は、國の人即ち國民を愛するにある。

而して、國民を愛すると言ふは、大體、國民の名譽の高まる事と國民の利福の增進する事とを望む事だと見て大過無いであらうと思ふ。

國威の發揚と言ふ事もある國權の擴大と言ふ事もある。併しながら、それ等は何れも國民の名譽と利福とを望めばこそ希はれる事であらふ。國威や國權は國民の名譽利福の手段とも見らるゝ。又、富國强兵と言ふ考へもある。併しそれとても、それに依つて國民の名譽や利福が保たれると考へられるからこそ、それが願はしいまでゞある。國が富んで民が貧しい筈はない。兵力が强大になれば國民の利福が充分に守らるゝとの見當が間違つて居ないとして、始めて富國强兵が愛國心の目標となる譯であらう。

私は愛國心の內容を物質上の問題とのみ限つて、單に貨幣の豐富とか食物の飽滿とか言ふ事以外に何も問題はないと考へては、恐らく諸君の肯定を得る事は出來ないであらうし、又それは人間の心理內容を解剖しつくさないものであると考へる。そこで私は愛國心の對象が國民の利福の外に、精神的なる名譽とか、誇負とか襟持とか言ふ一面をも含む事を指示してかゝる。恐らく諸君の考へも大差ないはずである。

愛國心は自國が他の國に征服さるゝ時に最も著しく傷つけられると同時に、自國が他の國を征服する事に依つて最大の滿足を呼ぶものである。

此の事も亦、被征服は、國民が土地を奪はれ自由を奪はれ精神の獨立を失ひ生活の基礎を失ふ。即ち名譽と利福とが根底から崩壞すると見做され、征服はその反對に名譽が有効に保證せられ、利福の基礎が極めて强固になると斷定せられるからであると見なければならぬ。

要するに私は、愛國の內容は、結局國民の名譽と利福とに他ならぬと思ふ。これは總ての愛國者諸君も同樣に考へらるゝに違いない。此の點は大體かくの如く考へて置いて議論を進める事とする。

二

尤もまだ一つ問題が残つて居る。

私は今まで、國民の利福とか、國民の名譽とか言て來たが、その『國民』とは何のことか。國民の個人々々を指すか國民の全體を單位として一纏めに『國民』と呼ぶのかそれとも國民の中の或る部分の人だけに就てそう言つてゐるのかと言ふ問題である。

併し、愛國者の心の對象として『國民の名譽、利福』と言ふ場合、先づ、それが國民中の或る部分の人々だけを指すものでない事は明かである。國民中の一割に區別を設け、その部分だけの利福名譽を希ひ、その部分だけの利福名譽の爲めに骨を折ると言ふのであつては、それは恐らく理屈なしに愛國者自身の否定を買ふであろう。

恐らく、愛國者諸君に取つては、自己の心願が國民全部の上に係り自己の努力が國民全體の爲めに役立つ所に、最も重大な意義が感ぜらるゝであらふ。一つの團體や一つの俱樂部の成員が、その所屬社會に盡す事などに比べて、愛國には、特殊の價値や尊さが感ぜらるゝのは、主として愛國者の眼中、國民全體の問題が横はるに基因するではなかろうか。

次に『國民』とは、國民の個人々々の全部を指すのか、それとも全體を總つた一體として指すのかと言ふ問題であるが、之は大分困難で、社會學や哲學などの智識の助けまでも借らなければ決定し難い問題である。こゝにはたゞ、常識的に考へて、それはどちらでも大した差異はないとして置こう。その代り、一つ大切な條件がある。それは、國民全體の利益が進んだ場合には、全部の個人々々の利益も確實にそれと同じ割合で進むやうな關係が、全體と個人々々との間に成り立つて居なければならぬと言ふ條件である。

此の條件さえ備はつて居れば『國民全體』と言ふ事が何れであつてもいいし、又『國家』と言ふ言葉をそれに置き換えて『國家の名譽』とか『國家の利福』とか言つても、意味の內容は同じ事になる。即ち、國家の立場に安定がある時には國民の個人々々の全部の心にも落付きが出來、國家の財政

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が豐富な場合には、同じ割合で國民全體の、個々の經濟生活も餘裕を生じて來ると言ふやうな關係が、國家と國民の全部との間に、堅く成り立つて居るならば『國家の爲め』と言ふのと『國民個人々々の全部の爲め』と言ふのとは、實際上全く同じ事である。

そこで、愛國者諸君が『國家の爲め』を考へながら實は『國民全部』の利益名譽を心願してゐる限り『國家』と『國民』との間には、ハッキリ右のやうな關係が成り立つてゐなければならない之は諸君も無論異議を挾まれない所であらうと思ふ。

三

所が、若し『國家』と言ふ考への中味と、全部の國民とが別の物であつて、隨つて『國家の爲め』の仕事が、必ずしも全部の國民の爲めにならないやうな事だつたらどうだろう。

愛國者諸君が、萬一このやうな事情の下に、そうとは氣付かずに考へたり働いたりして居るとすれば、それは大變見當の違つた仕事をしてゐる譯である。

私は今、これから言はうと思ふ事の意味を解り易くする爲めに話を一つの村に移す、國家に國家の。問題があると同じやうに、村には村の問題がある。それから、村の住民の中で、自分個人だけの事を考へて日を送る人と、村の爲めに常に心配もし骨も折る人との二つの種類がある。此の事は、國民中にも愛國者と、個人主義、自分本位の人との二つの種類があるのと全く同じ理屈だ。

さて、今私が話題にせうとするは、神奈川縣のある海岸の村である。話は約十年前の事から始まる。

神奈川縣の海岸、所謂湘南の地一體は、別莊地、避暑避寒地として此の二十年ばかりの間にメキ〳〵發展したが、約十年前まで、此の發展から漏れた一つの村があつた。氣候と言ひ風景と言ひ立派な村が、一つだけ繁昌から取り殘されたのは、此の村に完全なな道路が無く、如何にも交通が不便なからであつた。

そこに一人の愛村者――愛國者と全く同じ心持ちを以つて自分の村を見る人――が居た。彼は何とかして自村に完全な道路を付けたいと考へた、約三年間、村の有志を說き郡役所に說き、雨の日も風の日もこの運動に働きつゞけたその結果、初志を貫いて、國道から連つて村の中央を走る道路が出來、も寄りの停車場から、荷車も人力車も一直線に來るやうになつた。彼は喜んで、三年間の疲れを休めたが、その時彼のさゝやかな持ち地は町の銀行の擔保に入つて居た。つまり彼は、私財を擲て運動を續けたのであつた全く彼の心は美しい。愛國者の心であつた。自分の得失を忘れて、これから靜かに村の發展を樂しまると考へて居た

果して彼の努力の酬は現はれた。その年の秋には、もう此の村の松林の中へ新しい別莊が四五軒立ち並んだ。暮れには、彼の作つた道路に沿ふて、橫濱の商人が見事な雜貨店を開いた。翌年は病院が出來、宿屋が建ち、牛乳屋が開業し、雜誌屋が始まり白いエプロン女のカフエーまで出來たその後四五年の後には、隣の村に劣らぬ避暑地氣分の立派な別莊村になつて了つた。彼の豫期した通り『村の發展』は成効した。

所が、その時分、彼は憤慨の極度、血眼になつたやうな心持ちを抱いて此の愛する村を去つて行つた。その彼は、地震前まで橫濱の場末で、桶の職人になつて居たと聞いて居る。

彼は何故憤つて村を捨てたか。それは私に此の話を聞かしてくれた、その村の駐在所の巡査――これは在鄕軍人で模範巡査であつた。社會主義者たる私は、その村の友人を訪ふ度に此の巡査に尾行に附かれたが、僅か二三度の接觸で友達になつて了つた。それから此の巡査は、村を捨てた愛村者とも大の仲善しで、彼の悶々の情の唯一人の理解者は、此の人であつたと本人から聞いた。――の言葉をそのまゝ借る事とせう。

『村は賑かになりましたよ。それで先づ喜んだ者は地主です。坪圓一位の松林が、七八圓にも上つたんですからな、その上に、地主等は店を開いたり、乘合自動車を作つたり二重うの儲けです。その中の五六人は會社組織で大きな旅館を立てましたよ、それが又當つて金は殖える一方です。あの男――話題の愛村者――もそこまでは喜んでゐましたがね。所がそこへ問題が起つたんです。

『その一つは、土地で儲けた地主が、小作人に對して非常に鼻息が荒くなつた事です。中でも、村が賑つてくれば果實の需用が多くなつた。小作人がぐず〳〵言へば土地を取上げて桃畑にすると言ふ譯で小作の方では今までの二倍も頭を下げなければならなくなつたんです。そりや、小作人だつて村の發展で、別莊の日雇仕事位は殖えたでせうが、それでは埋合せになりませんや。そこへも一つ、儲けた地主が躍氣になつて機械船を買込んで漁業を初めたんです。こゝは本來半農半漁の土地でせう。手押舟本位の漁師でやつて來た所へ、突然發動機のポン〳〵鳴る機械漁船が現はれたんだから皆んな弱りましたよ。機械船にも村の者を使ふには使ふんだが、こいつは人手が省けるから十人で五十人分の仕事をやる。アトの四十人は手押舟でその前を張つたつて叶はない。仕方なしに百姓の方を主にやろふと言ふ事になる。そうなると土地の借り手は殖える一方だから、地主の腰は益々強くなるんでさあ。こんな譯で、此の三四年間、村の衆の暮し向きはメッキリ弱つて來たんです。

『尤も、それは時勢と言ふも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ので、別荘の出來た事だけがモトだとも言へないでせうが目に見えた原因は村が發展した事なんだから、口の利ける小作人は別荘なんかゞ無暗に出來た事を、タマにはグズグズ言ひますね。中かには、こんな道路が出來たんだからそれがモトだなんて、ツイ當り散らす者もあつたでせう。此の事があの男――唯一人の愛村者――の心にジリ〳〵映つて來た時、あれはもうジツとして居れなくなつたんです。何しろ、一途に思ひ詰めた村の發展が出來て見ると、村の衆は皆んな困つちやつたんですからな。

『九一度私は言ひましたよ。お前は自分一人の運動で、道路を開かした程の腕や根氣があるんぢやないか、村の物持ちだつて內心お前の手柄は知つてゐる、一つ今度はお前が身を立てるやうに働いて見ろよ、物持ちの十人も說きつけて、何か儲け仕事を一つ起しやあ少し位の財產はヂキに出來やうぢやないかつてね。そうすると彼はね、そんな事が俺に出來るかい、俺が又一人儲けりや、村の衆の敵が又一人殖えらあつて』そいつは全く理屈だと僕も考へましたね

『こんな譯で、彼はとう〳〵橫濱に行つて了ひましたよ……』

こゝまで語つた時、模範巡查の顏も緊張した。私は思はず淚を落した。――社會主義者が、敗れた愛村者の心に泣かされたのだ――。

四

私は彼の爲めに泣く。

彼の心情のあまりに悲しきに泣き、彼の考へ方の、あまりに淺かつたに泣く。

彼が村を愛する爲めに起たうと決心した時、彼は何が故に村の內輪を考へなかつたであらう。『村の發展』はたゞ『地主の發展』に了るべき筈の村の內狀『地主の發展』は却つて村民全體極めて少數の地主を除いての村民全體――の疲弊となり、不幸となり、苦痛となるべき筈の村の內狀を何が故に考へなかつたであらう。

彼の心は神の如くに美しかつた。彼の行は全く殉道者の貴さがある。彼の血も汗も、三年近い長い年月の間、たゞもう『村の爲め』にばかり絞り捨てられて來た。その爲め彼は遂に持地を失ふて自作農の地位を放げ、出されまでした人が皆――愛國者諸君が蔑使の如くに嫌ひ卑める――物質的利己主義に動いてゐる時、彼一人は營々として『村の爲め』に骨を碎いて日を送つた『全く運動の最も熱した一年間あまりは、彼は飯の味さへわからんと自分で言つて居ましたつけ』と模範巡查も語つた。

而も彼が此の苦心を以つて促し得たものは何であつたか村の階級的對立であつた。少數の地主は益々富み、大多數の一般村民は地獄へ向けて一足々々追ひ落さると言ふ、彼に取つては寔に意外千萬な結果であつた。村民の安定は蹂躪せられ、村民の利福は根こそぎ奪はれる。之が愛村者の力の報酬なのだ。

されど、それは勿論彼の罪ではない。彼の罪でなくて村の罪である。村の內輪の實狀の罪である。

尤も之を、富んだ地主の、その人の罪だとは言へない。地主自身はたゞ弄で、儲けられるまゝに儲けたゞけの事である。決して自分が惡い事をしたとは考へられない。――諸君もそう思ふであろう、

それならば、一體誰が惡いだらうか。誰の罪で此の愛村者が生れた土地にも居れなくなるやうな馬鹿な矛盾した事となつたであらうか。

それは、誰の罪でもない。人の罪ではなくて制度の罪である。その村の制度の罪である。此の村に今行はれて居る制度がある限り、愛村者のこうした努力は『村の爲め』にはならないで『地主の爲め』となり、その上、一般民の不爲めとなるのである。そこで問題はたゞ制度にあるのだ。

村の制度は、彼の努力が地主に吹ひ取られて了ふやうにちやんと初めから仕組まれておるのであつた。

若しも彼が、初めから深く々々考へたならばこういふ村の內輪の實情をはつきり見て取つたに違いない。そうして何をすれば本當に村の爲めになるかと言ふ事を充分思案し研究したに違いない。その時彼は一つの『思想』を抱くべき筈であつた。

五

右に私は『思想』と言つた。

此の思想は、はたしてどんなものであつたらうか。こゝで私は私が諸君――日本の愛國者諸君――に質問したい問題の一端に觸れた。

私の言はんとする問題は初めから村の事ではなくて國家の事である。諸君を愛國者として話しかけて居る。然し乍ら、愛國と愛村とは同じ心の流である。公の爲めを願ふ心自分の住む世の人々全體の利福名擧を願ふ心、それが村を相手として働けば愛村者となり、國に對して働けば愛國者となる。二つは實は、一つの心の異つた現れ方に過ぎぬ。

所が、愛國心と愛村心とが同じものである許りでなく、內輪の事情に於て――右に述べたやうに公の爲めに働く人は自分の努力が眞に以外の結果を生むやうな、此の內輪の實情に於て――が又村と國とは全く相一致して居る。――と我等は考へる。

こゝに話題とした湘南の一つの村の實情は、決して此の村だけの事ではなくて、總ての村に共通したものである事を諸君も容易に認められるであらう。それは少しく心の眼を開いて世の中を見て居る人ならば誰だつて見逃す事は出來ない事實である。

然るに、これは又我々だけの事ではなくて、同じ狀態が國家にも共通して居る事ではなからうか。

若し私等の此の考へ方が誤

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

つて居ないならば、愛村者が村に對して先づ考へなければならなかつたのと同じ事を、全く同じ事を、そのまゝ國家に對しても考へなければならないであらうと信ずる。

七

もう私は結論を急がう。

私は諸君の批判を受けるべく、こゝに私等社會主義者の考へを略述する。

さきに村の制度と言つた、社會主義者は村の制度に對して一つの理想をもつておる。それは、村の爲めを計る努力は、そのまゝ村の衆全體の村民個人々々全部の、利益や幸福や名譽を確實に生み出すやうな「村の制度」を作りたいと願ふものである。その爲めには地主とか地主でない一般村民とか言ふ立場の上の差別が村人の間にあつてはならぬ、

これはたしかに村の「改造」である。社會主義者は村に對しては村の改造を主張するものだ。改造しなければ村民全部の利福や名譽か計られないと信ずるからである。社會主義者としての私はかの湘南の愛村者に村の改造をすゝめたかつた。村の改造こそ彼の心に本當に沿ふた道であつた。そこに眼を付け、そこに手を働かしてこそ、彼の愛村は本統に村民のすべてを愛する道となる事が出來たであらうに。

そうして社會主義者は同じ考へに依つて、國家の改造を願ふのである。

田の中央に凹地があると假定する。此の田に水を入れるとする。水は皆凹地に流れて行つて、田の全面には決して行き渡らないであろう。田に水を送る百姓は、凹地に水溜を作る考へではない。稲を實らしたい爲めに、燒くやうな炎天も厭はずに働いて水を送つてもそれは皆凹地に吸い取られて了ふ。

地主は村の中央の凹地のやうなものである。その村に流れ込む利益は、地主の倉の中や懐へ吸ひ取られるやうになつてゐる。

これが制度の力である。制度は、眼に見えない力で、その社會の出來事を、一つの型に嵌めて定つた通りに整理して了ふ働きを持つてゐる。それは全く田に流れ込んだ水が一人で凹地の方へ流れて行つて溜るのと同じ事である。假に水に心があつてそうなりたくないと焦つたつて仕方がない。社會制度の前には何物も頭が上らない。意志のあるものも無いものも知らず〳〵の間に、その制度の型の通りになつて了ふ。社會での出來事は、決して個人々々の思ふやうになるものではないのである。

併し社會制度も一つの制度が何時までも續くものではない。現に我々が知つてゐる通り、六十年前までは封建制度が續いて居た。封建制度の前には氏族制度があつた。更にその前には、古代の共產制度もあつた。これ等の色々の制度は、皆大木が枯れ朽ちて倒れるやうに、それ〴〵の時期に倒れて次の制度がそれに代つて現はれた。德川の封建制度が倒れて、明治の制度がそれに代つたのもその一つである。明治では今我々の見る如き、資本主義の制度が始めはボンヤリして居つて、段々ハツキリ完成して來た、

すべての制度が、始めの間はその社會の多數の人の利益に一致するが、社會が進むに隨つて一致しなくなる。その時には、その制度はもう倒れて次の新しい制度に代らなければならぬ時である。

そこで我々は制度の改造と言ふ事を主張する。

八

社會主義は、制度の改造を主張する思想である。制度を改造して、國民全部の利益幸福を充分に守るやうな制度を造らうと言ふ思想である。それは德川幕府を倒して封建制度を廢し明治の制度を建てたのと全く同じ意味の思想である。

稲を充分實らせたいと思ふ時、田の中に凹地があれば、それを先づ直さなければ、如何に水を送つても稲は枯れて了ふ。湘南の一愛村者が、切角の努力も、地位だけを富ました事となつたのは、凹地をそのまゝにして水を送つたやうなものである。稲を愛するなら、凹地の田に植えて置いてはならぬ。本統に世の人を愛するなら、世の中の凹地をそのまゝにして置いてはならぬ。

若し、國家は改造を要しないと考ふる者あらば、その人は静かに心を澄まして、國民多數の生活のあるが儘を凝視しなければならぬ。そうして國民の多數の實狀を看取した時、眼を社會の他の一角に轉じなければならぬ。そうして無際限の發富と、痛惱を極むる發貧とを兩極として、我が社會は回轉しつゝある、何人も無視するを許さゞる眼前の事實に當面した時、再び改造の必要の有るか無いかを深省しなければならぬ、

社會主義と愛國とは、全く反對のものと言ひふらされて來て居る。然し乍ら社會主義者の心は終始一貫して動かない。それは、この村の話に依つて大體述べたやうな、意味に於ての國家の『改造』である。社會主義者の情熱はそこに燃え、社會主義者の決意はそこに定まつて居る。命を失ふも牢獄に投ぜらるゝも、たゞ此の信念の爲である。

村を愛せんが爲めには、先づ村の改造を考へ國を愛せんが爲めには先づ國の改造を考へる。社會主義者の理智も情意もたゞこの考へが中心である。その改造が如何なる道筋を通つて行はれて行くかとの問題は、それは又自づから別である。

社會主義者の考へは一貫して變らない。愛國の熱情に取つてそれが、敵であるか味方であるかは、たゞ愛國者諸君の考へに依つて定まる。

諸君は、果して如何に見るか。敢て愛國者諸君の所信に質す。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會民主々義的政治運動に對し共産主義者は何を爲すべきか。

此の問題に對し、進め社は以下の如き質問を發して回答を得た。
自由主義的若しくは、社會民主々義的なる政治運動は普通選擧の豫想に依つて急速に熱度を高めて來ました。所謂合法的政黨の準備なども各處で進行してゐるやうです。此傾向に對してコムミユニストの、抱くべき信念採るべき態度は何でせうか。殊に又若しコムミユニストが此の運動に參加するとすれば、政黨氣分の雰氣に煽られて、共產主義の本流を踏み外す危險が多いと思ひます。之に對しては如何なる用意を要するでせうが。

新形勢と新方策
―政黨問題に就て―

進めの課題に答ふ

山川　均

一

普選實施の形勢を見越し、可なりに廣い範圍に亘つて、新しい政治運動の機運が、急速に動いて來たことは事實である。

この政治運動の新機運は、一つのやうであつて實は二つの內容、二つの意義をもつて居る。即ち第一には、自由主義的、民主主義的政治運動（立憲民主黨の運動）の勃興を意味して居り、第二には、無產階級政治運動の擡頭を意味して居る。

二

政治上の發達が、資本主義の經濟上の發達に伴ふて順調に行はれた國では、民主主義の運動によつて選擧權が獲得され（そしてこの運動には無產階級も參加した）政治上の自由主義と民主主義とが或る程度の發達をしたところでは無產階級は初めて政治的に訓練を積み、階級的に成熟して初めて一般的な自由主義民主主義の政治運動から分化し、階級意識の上に立つ獨立した政治運動に進んだのである、ところが今日に至るまで、ブルジョアも小ブルジョアも、曾て政治上の自由主義も政治上の民主主義も發達してゐなかつた日本では、官僚政治家によつて政略的に與へられようとする普通選擧によつて、却つて自由主義的、民主主義的政治運動の機運が促がされようとして居るのである。

この政治運動は、恐らく立憲民主主義の政治運動と名づけるのが、最も適當であらうと思ふ。日本に於ける立憲民主主義の政治運動は、大體に於いて、財閥と大資本と大地主の勢力に對する小ブルジョアの利害を代表する政治運動であつて、中產階級とその下層、自作農、智識階級の進歩分子、華族の新人などを糾合し、事によつては、消費者としての利益を代表する點で官僚の一部とも抱合するかも知れぬ。

この運動の結果、日本にどれだけ、政治上のデモクラシーが實現せられるかは疑問である。私は日本のブルジョアも小ブルジョアも、今日に至るまで政治上のデモクラシーを發達せしめなかつたように今後も亦た、さうだと確信する。勿論、これは程度の問題である。日本の今後にも、或る程度の政治上の民主主義が發達することは疑ひがない。また無產階級が充分に成熟するためにも、固よりその必要がある。然しこれは或る程度の發達であつて、私は日本に於いては、資本主義が順調に發達して政治上の順調な發達を伴ふた國に於けるやうな、政治的デモクラシーの發達を見ぬものと確信する。今や普選の實施を氣構まへて、勃興の機運を見せてゐる小ブルジョアの民主主義的政治運動も、曾てに於けるブルジョアの自由民權運動と同く無妥協に終るべきものである。殊に無產階級の獨立した政治運動が勢力を占るに從つて、それはます〳〵妥協的となり、常に大ブルジョア黨と無產階級黨との中間を彷徨する最も氣力のない政治的勢力となるだらう。

それならば、普通選擧實施の豫想によつて動きかける新機運は、たゞ右に述べた立憲民主主義的政治運動の勃興を意味するだけであらうか。若し無產階級が階級意識の上に立ち獨立した政治上の一勢力として結束することが出來ずに無產階級の大衆が離散して、この小ブルジョア民主主義の運動に吸收し同化せられて了ふなら、今動きかけてゐる新機運には、僅かにそれだけの意義しかない。

けれども實際の形勢は、決してそうでない。今動きかけてゐる新しい機運には、前に述べたように二つの意義、二つの內容がある。即ち一面には、小ブルジョア民主主義の勃興であると同時に、一面には、無產階級政治運動の擡頭である。

三

そこで普通選擧實施の豫想に刺戟されて、政治運動の上に起つた新しい機運は、既成政黨と在來の政治的勢力に對

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

した場合には、唯だ一つの新しい政治的勢力が加はることのように見えるが、實はこの機運のうちに、二つの勢力が戰ふて居る。即ち小ブルジョア民主主義と無產階級の政治的勢力が戰ふて居る。

小ブルジョアが財閥と大資本と大地主との政治的勢力に對抗するためには、新たに選擧權を獲得した無產階級の支持を得ることが、絕對に必要である。そこで小ブルジョアの政治的勢力を代表する政黨は、まだ政治的に組織せられて居らぬ無產階級を成るべくそのまゝの狀態において、何時でも、彼等の小ブルジョア的立憲民主主義によつて指導しようとする。彼等は今動きかけた新しい機運によつて、無產階級の指導權を掌握するのである。

政治上の自由主義と民主主こが或る程度の發達をすることは、無產階級の階級的成熟に必要である。そこで此の範圍に於ては——そして此の範圍に於てだけは——無產階級の利害は彼等の利害と一致する。從つて此の範圍に於てだけは、無產階級は小ブルジョア民主黨の勢力を利用することが出來る。

けれども無產階級が小ブルジョア民主黨の勢力を利用することが出來るのは、無產階級が一個の獨立した政治的勢力として、結束して居る場合に限られて居る。若し無產階級が政治的に組織せれて居り統帥されて居らぬなら、階級意識のおくれた一般大衆は、小ブルジョア民主黨の指導に歸し、大ブルジョアに對する小ブルジョアの政治的勢力を大きくするに過ぎぬ。

日本の無產階級は、過去數年間の鬪爭と團體的訓練とのお蔭で——就中、ブルジョア政治を否定して進んで來たお蔭で——鮮明な階級意識の上に立つ前衛隊を生み出した。多かれ少かれ團體的の實戰を經て、團體的の訓練を積んだ組合に組織せられた勞働者と農民とは、日本の無產階級政治運動の中堅となり、前衛となるべきものである。

そこで普選實施の豫想によつて勃興した新機運とは、一面から見れば、財閥、大資本大地主の在來の政治勢力に對する、小ブルジョア民主主義者と無產階級との協同の戰ひであると同時に、この機運の底には、更に重大な歷史的意義のある戰ひの暗流が流れて居る。即ち小ブルジョア民主主義と無產階級との鬪ひである。詳しく云へば、まだ階級的に成熟して居らぬ、無產階級の大衆が、小ブルジョア民主主義の指導に歸するか、それとも無產階級の前衛によつて代表せられる階級意識によつて指導されるかといふことこの二つの勢力の對峙と消長これぞ普選實施の豫想に促がされて現はれた、新形勢の神髓である。

四

この新形勢に對して吾々の任務と吾々の努力の焦點は、勢ひ小ブルジョア民主主義が無產階級を分解し同化する作用に對して、無產階級が政治的に分散することを防ぎ、之を全階級に保全することである。言葉を換へて云へば、全無產階級を、獨立した一個の政治的勢力に結束することである。

この全無產階級的勢力を結束した勞農黨(乃至は無產黨その他名稱は何にせよ)は、如何なる綱領、如何なる政綱を掲げて進むべきであらうが勞農黨は、一切の議會行動を否定すべきであらうか。それとも與へられた選擧權を最も有効に利用すべきであらうか若し選擧權を利用するとせば自黨の候補者に向つて投票することが有効であるか、それとも投票用紙を、投票箱の外に叩きつける(即ち積極的に棄權すること)によつて、議會に抗議し、議會をボイコットするのが有効であるか。これ等の問題は、固より重要な問題には相違ない。けれども第二に重要な問題である。第一に重要な問題は、無產階級の大衆を、小ブルジョア民主主義の指導に引浚すかどうかと云ふ問題である。そして無產階級の一般大衆の階級意識が低く、政治的の自覺が乏しく、階級的の成熟がおくれて居れば居るほど、この問題がますます第一に重要な問題になつて來る。都會と農村に於ける無產階級が、政治的に離散することを防ぎ、政治の戰線に、全無產階級を政治的に結束すること、これが第一の問題であつて、この問題に或る程度の成功を收め得るに從つて、第二の問題が漸次に重大を加へて來る。

新たに生まれる勞農黨が、無產階級の前衛たる最も進步した分子によつて代表せられる階級意識に基づいた、最大限の革命的政綱を掲げて驀進することは、最も望ましいことに相違ない。けれども勞農黨が革命的陰謀團や門派でなくて、全無產階級の政黨である以上は、この政綱は、實際には、最大限の革命的政綱から多かれ少かれ讓步せられたものとなるに相違ない。即ち實際の狀況が許るす最大限の政綱が採用せられるに相違ない。そしてこの『實際の狀況』を定めるものは、從つて最大限の革命的政綱から、どこまで讓步せられるかを決定するものは、第一には無產階級の一般大衆が、階級的にどの程度の成熟をして居るかといふこと、第二には、無產階級の前衛隊たる分子に、どの程度の統帥力があるか、言葉を換へて云へば、前衛隊と本隊との實力の割合如何といふことである。第三には、一般の形勢がどれほど切迫して居つて政治的勢力が、各階級の間にどんなあんばいに分布せられて居るかと云ふことである。例へば棄權運動は、反動的勢力が高潮に達して居るかさもなくば革命的形勢が相當に切迫した狀況の下でなければ、積極的の大衆運動となることが出來ぬ。無產階級の政黨が積極的棄權を以つて進んで行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

かれることは、望ましいことである。何故ならば、それは形勢の切迫を意味するからである。けれども無產階級の戰術は、吾々の願望によつて定まるものではなく、實際の形勢によつて定まるものである

五

無產階級が政治的に離散することを防ぎ、全無產階級を一切の政黨から獨立した一個の政治的勢力に結束すること、これが無產階級黨の任務であつて、吾々の努力の焦點でなければならぬ。勿論、無產階級黨は如何なる場合にも、無產階級に屬する總ての人々を黨員に網羅することは出來ぬけれども如何なる場合にも新たに生れようとする無產階級黨は、全無產階級を政治的に代表し、統帥するものでなければならぬ。如何に其の政綱が、革命的理論の上からは立派であつても、全無產階級を政治的に代表することが出來ず、全無產階級を政治的に統帥する力の無い一小門派であつたなら、この政黨は、別の意味では如何に有益なものであらうとも、少くとも前述の如き形勢の下で前述の如き任務を全うすることは出來ぬ。

新たに生まれる勞農黨をして、出來得る限り、全無產階級黨たる目標に近いものとすることは、政黨問題に對する吾々の第一の任務である。新たに生まれる無產階級黨は、組合に組織せられた工業勞働者と農民とを中堅とすると同時に、その他の一切の無產階級分子を包容しなければならぬ。例へば小自作農の如きは經濟上の外形より言へば本來の意味での無產階級ではないが、その生活の實質が無產者と同一であるばかりでなく、その經濟上の動態から云へば漸次に無產階級に沒落すべき運命をもつて居る。無產階級黨は、是等の分子の利害をも考慮に入れ、少くとも是等の分子を、ブルジョアジーの政治的勢力から離らせることを以つて、戰術の一つとしなければならぬ。

勞農黨をして、全無產階級的の政黨たる目標に近づかしめるためには、その出發點からして、小黨分立の勢ひを馴致せぬように、極力警戒しなければならぬ。情實本位と人物中心主義と群雄割據主義とは、階級的團結の敵である。吾々は無產階級の政治運動が一切の行懸りや情實を排し人物中心に代ゆるに政策中心を以てし、曖昧な妥協を排して明白な討論を用ひ、それと同時に共同の敵に對する同志的の寬容と互讓の精神を以て、無產階級の政治的結束を成功せしめることに、最善の努力をしなければならぬ。

六

新たに生れる勞農黨が、包容的であればあるほど、その政治運動は、無產階級の革命的政治運動の本流を踏み外づして、單なる社會政策的の議會主義政治運動に溶け込んでしまう危險は增加する。

けれども現在の形勢の下に於て、前述の如き任務を果たすことの出來る政黨は、斯ようなる危險を最も多く件ふ種類の政黨――包容的、全無產階級的の政黨――である。この點に於て、日本の無產階級運動は、進退兩難の立場に立つて居る。吾々は或る時には、政黨の效果を棄てゝも、この危險を避けねばならぬ。それと同時に、或る狀況の下にはこの危險を冒しても、政黨組織によつて遂せられる無產階級の階級的成熟といふ效果を收めねばならぬ。

勿論この危險の程度は、都合と農村とに於ける組合に組織せられた無產階級――無產階級運動の中堅分子――の階級的自覺が、どの程度まで明確であるかによつて定まるものである。それと同時にこの危險を最小限度にする方法は吾々が率直大膽に、この危險を自認することである。吾々は非常な危險に向つて進まんとして居ることを自認しなければならぬ。

七

「政黨氣分の景氣に煽られる」ことは、如何なる場合にも排斥しなければならぬ。吾々は「政黨氣分の景氣」を過大視してはならぬばかりでなく政黨運動の效果をも、決して過大してはならぬ。組合運動に對する熱心と精力とを、政黨運動に轉換するやうなことは、無產階級運動に對する許すべからざる罪惡である。

過去數年間に於ける日本の組合運動は、その針路を誤つてゐた、この過ちを訂正するために、政黨と議會主義に方向を轉換しなければならぬと主張する論者がある。吾々は日本の無產階級運動の過去に、多くの過ちのあることを認めるに躊躇せぬ。けれどもそれにも拘らず、吾々は或る論者のやうに日本の無產階級運動の歷史を帳消しにしやうとするのではない。新しい形勢に處する新しい方策は、過去を抹殺するためではなくて過去を活かすものである。新しい方策は、今日までの鬪爭の續きであり、延長であり、そして同時にその戰線の擴張に外ならぬ。政黨運動は、斷じて眞の組合運動に代はるべきものではない。從つて「政黨氣分」のために、組合に對する熱心と確信とは、寸毫と雖も動搖せしめてはならぬ。そして之はまた、やがては政黨組織に伴ふ危險を避ける、有力な用意ともなるものである。

（病臥中執筆困難のため、盡さゞる點多し、御諒恕を乞ふ。十一月四日）

故河合・北島兩君の遺稿發行に就いて

私共は、兩君を永く記憶せんがためその遺稿及び澤山の同志知友の故人等に對する追悼、感想を纏めて、發行したいと存じます。

同志諸君、何卒、私共地方青年の此の企てにお力を貸して下さい。特に、發行資金の御援助を、お願ひ致します。御援助下さる方は、どうぞ左記へ御送金下さい。その他色々の御問合せ等も。

（秋田縣土崎港青年同盟　近江谷友治宛）

右の企ての發起者　（秋田）秋田青年同盟　（弘前）青森青年同盟　（信州）自由青年聯盟

本流に棹して流る

柴　耕介

一

コンミユニスト、當面の危險は本流を踏み外す事よりも初めから本流に乘り入らず、本流に迷ふて立つ事である。

勞働運動、社會運動と云ふも究局は政治的鬪爭である。經濟運動至上主義者だつて、政治運動の一部としての經濟運動だといふこと位ひは心得てゐる。

さうした重要さを持つ政治的鬪爭において、政黨が一方の重大な役割を持つことは云ふまでも無い。政黨を持たない政治的鬪爭は考へられないことである。

それだのに日本はどうであつたらふか。コムミユニストはもちろん政黨を持たなかつた。持ち得なかつたのであるそして持つべき時期に當面したのである。

普選の笛に踊つてやがてどんな政黨が起つてくるか。それはまだ分らない。しかし大體の見定めは出來ないことは無い。英國のやうにと云ひ、或は佛蘭西のやうにと云つた議論はあらふが、要するに勞働組合農民組合、水平社の人々とブルジョア●リベラリストに至るまでの一切を打つて一丸とした一政黨が出現するであらふ。まさかに小黨分立でもあるまいからである。政綱は思ひ切り低く下げたものであらふ。それで無いなら大衆の上に即することは出來ないからである。

或はそんな生溫るい政黨がなんになる、と憤然とするものがあるかも知れない。しかし考へても見るが好い、これまでピラミットの突角に雄飛して『大衆の中へ』『無產階級の政治的訓練』などと叫び喚ひたのであるが、それが間違つていたことは今日極めて明白である。今日はピラミツトの突角から、大地へ下りなければならない。上から引き上げるのでなく下から大衆と共に這ひ上るべきであるとすれば生ぬるい政黨だからと云つて、袖をふり拂つてピラミツトの上に、吾れ獨り納るべきでは無い筈である。

或は又『生ぬるい政黨』の前衞隊として且つは監視の重要を自任して別に小黨組織の議論が起るやも知れない。しかしそれは今のところ害あつて益のないことである。それ自體が大をなさざるはもとより、後援が續かず、大衆と離れ、又は大衆から敵視される前衞隊は、實は前衞にはならない監視ならば政黨の內部において、大衆のなかにおいて、充分監視し得らるゝ。

二

『議會制度はブルジョア●デモクラシイ――の形態として無產階級を籠絡するからくりである。しかし之れを利用して議會の內外から打ちこはすための議會行動である、大衆がいつ、いつまでも飽かず議政壇上を見上げて、望みをつないでゐるのなら、その壇上から宣傳すると云ふことが、議會行動の本流であらふが、しかし日本のやうにブルジョア政治形態の遲れた國に於ては、議會の立法的職能に策應して『民衆當面の要求』を民衆と共に要求しなければならないことが多いのであつて、議會を通じてブルジョア政府がコムミユニストの利用に乘ぜられ、民衆當面の要求が、議會の立法的職能によつて、いくらでも入られるだけのものは、多くの場合入れさせねばならない必要がある。そして其の間は、そしてそこまではブルジョア政治の安定を保ち得る限界である、當面の要求はまたゝく間にその限界を突破し、壇上を挾んで烈しい鬪爭の演じられることは當然である。そしてもう一とつは政黨の內部において不斷の鬪ひが行はれることも當然である此の鬪爭の善導はまさしくコムミユニストの重大な役割であらふが、議會利用、立法的職能に賴り過ぎるの結果、善導を怠り、本流を踏み外すこの危險は、此のこころに多分に含まれてゐることは否み難い。それを防ぐために議員候補者を成る可く勞働者から出すといふこともあるが、しかし考へねばならないことはコムミユニストの政治運動は政黨運動がその全部では無いコムミユニストの政黨運動は議會行動がその全部では無いといふ點である。もとより議會の內外に起る議會行動が、當分は政治運動の主要部分にはならふが、しかしどこまでも部分たるにとどまり、政治運動の一般的形勢は、本流に棹して流れ踏み外すことなく議會におけるコムミユニストの行動を充分牽制し得らるべきであると思ふ。

三

要するに實話劇にでも出て來さうな話ではあるが、寶の山で寶玉を拾ひ、それを固く握り大事に握り　占めて家へ歸つて見たら、寶玉でもなんでもなく、瓦礫ならともかく馬糞の塊りだつたと云ふことは、有り得ないことでは無い『コムミユニズムの本流』は此所だ、と本流の流れにさからつて棹して流れず、流れに逆つて立つことは、寶玉の握り損ひと同斷である。

コムミユニスト、當面の危險はこゝにある。大衆の前に展開した、運動の曠野だ普選の笛吹いて大衆と共に躍る可きである。『コムミユニズムの本流』などと、馬糞を摑んで大衆の踊る樂屋裏に、吾れ獨り冷やかなるべきではない。

コムミユニスト當面の危險は本流を踏み外すと言ふことよりも、本流に乘り入らず、今は瓦礫と化した寶玉に、こだはつて、峻巡怯懦のオツポチユニストに墮することこの危險である。

「本流」の意味

北原龍雄

一

共産主義者が社會民主々義的の政治運動に歩調を揃へるこ云ふ事には二つの意味があるこ思ふ。その一つは、社會民主々義運動それ自身を發展せしめ、その力を共産主義的政治運動の防波堤たらしむる事である。第二は、社會民主々義運動の内部に、共産主義的勢力を培養し、本當の共産主義政治運動を發生せしめ發達せしめる基礎工事を仕上げる爲めの手段こして、民主々義運動に參加する事である。

私はかく二つの意味を認める。隨つて、運動上の方針にも、形態にも、二つの部分が豫想せられなければならぬこ思ふ。殊に運動上の實際の仕事には、ハッキり二つの部分に區劃が付けられるこ思ふ。

二

先づ第一の意味に就て考へて見るに、社會民主々義が所謂封建的勢力の横暴に對抗したり、ブルヂョア的勢力を牽制したりする事に依つて、より左方を流ろゝ所の社會主義的運動を助勢する結果こなる事は當然である。此の事は、現在の日本に於て、自由主義的なる學者や法哲家の集團が隨分我々を助勢してくれる事に依つても、或は又布施辰治氏の如き個人の厚意や配慮から隨分我々は力を得て居る事に依つても充分推定出來る。此の點から見て、かゝる政治運動が勃興する事は、共産主義者に取つて明かに歡迎すべき事である。更に、歡迎の餘り、自らそれに參加してその發展を急がす事も妥當である

併しながら、此の點だけから言へば、實は共産主義者自身が參加しなくても、一切を社會民主々義者に任して置いても、ほゞ同じ効果は上りはしないだらうか。

尤も共産主義者の參加が、此の運動をより左に進ましめる利益、より有力に働かしむる利益は確かにある。例へば一つの政黨が出來るこして、その綱領に幾分の左傾的修正を加ふるが如き、又、政黨をして所謂院外の活動に力を割かしむるが如き効果は、常識的にも想像せられる。併し、大體これだけである。民主々義には、民主々義だけの歴史的使命のある事が信ぜらるゝ限り、結局、此の一面に於ける共産主義者の仕事はそんなに重いものではないこ思ふ。のみならず、議會的政治運動(社會民主々義の活動中心は何んこ言つても議會である)は慣れない共産主義者が、不便なマスクを被つて遠慮しい〳〵やる仕事に、これだけの力が加へられるかは知れたものであらう。

況んや又、此の場合の効果の程度は、所謂共産主義者の勢力程度に依つて定まる。然るに、その勢力を決定するものは、實に前の二種の部分中の第二の方面の活動である。

三

そこで、私は考へを第二の部分の活動に移さなければならぬ。第二の部分こは、上述の如く、民主々義運動の内部に潜入して、本當の共産主義的勢力を培養する事である。此の事に成功する事に依つてのみ、眞の共産主義運動も起し得るだらうし、民主々義の勢力をそのまゝ動かして、共産主義的使命を帶ばしむる事も出來るのである。

さらばその實際方法は何か之は簡單に言ひ盡さるゝ問題ではないが、要するに、思想の宣傳こ、宣傳後の組織こ云ふ、平凡な理法に他ならぬ。たゞ、此の仕事を、民主々義この提携に依つてやる場合に伴ふ特徴は民主々義に依つておぼろげに現はされてゐる所の大衆の階級意識や、階級的要求を、そのまゝ取つて共産主義思想の説明資料こする事である。

又一方では、共産主義の運動は政治の世界である――換言すれば運動の對象が國家權力であつて、個々の經濟爭議のそれの如く資本家自體ではない――が故に、民主々義的のものであらうが、兎も角政治運動である限り、運動の形質が同一の範疇に屬して居るこゝに有利な事情がある。此の事情に乘ずる事は、共産主義的勢力の組織の上に、民主々義こ結ぶ事に依つて得らるゝ一つの利便である。

四

一體、本當の共産主義的政治運動こは何か。それは第一政治的突變の招來である。政治的突變は權力實行の突變的推轉に依つてのみ成り立つ。隨つて、社會民主々義的政治――議會政治――に見るが如き、互讓的、妥協的なる本質を一切含まない。此の事の明かなる認識、及びそれを可能ならしむべき經路の構成、それが共産主義的政治運動の第一條件である。

此の條件を實現せしむるには、先ず大衆の思想が、かゝる政治的突變を眞理こして受け入れなければならぬ。次にその實現行程こ認めらるべき組織が成就せられなければならぬ。此の二つを促進するものが、共産主義者こしての思想宣傳の努力及び組織形成の努力である。

それ等が成功して行く一歩一歩に、共産主義的勢力は發展する。之を民主々義的運動の流れの内部に實現するものが、こゝに謂ふ活動の第二の部分である。

初めに言つた如く共産主義者の社會民主々義的活動第一の部分、即ち民主々義運動の表面に加つて、それを左傾化し街頭化する事は、實は共産主義者の勢力の程度に比例して可能性を高めるのであるがその所謂勢力は、實に此の第二の部分の活動に依つてのみ養はれるのである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

　共産主義者はコントロールの語を愛用する。而も兎は獅子をコントロールする事は出來ぬ。自己が無力で民主々義的勢力をコントロールするこ言ふが如きは、五錢の白銅で自動車を買はうと云ふ無謀である。駄々ッ兒以上の無反省である。無謀を改め、無反省から覺める時、我等はどうしても、力第一の考へに到達せざるを得ない。而して力はたゞ上述の第二の活動に依つてのみ增進する。

　かく考へて來るならば、社會民主々義的政治運動との結合の中心は、實に第二部分の活動にあるこ考へなければならぬ。

五

　そこで、此の論文の主題の要點に觸れて來た。主題は二つに分れてゐて、第一、自由主義的（若しくは社會民主々義的）政治運動の勃興に對する、共産主義者の信念、及び態度如何の問題であり、第二は、それに共産主義が參加する時、共産主義の本流を踏み外し、民主々義的に墮落するを避くる用意如何の問題であつた。第一の部分は既に大體明らかになつた。即ち、所謂コントロールの意氣を抱いて此の運動に參加すべしこの一語に盡くるのであらう。所で第二の點に對して考ふるには先づ共産主義者の本流を踏み外すこ言ふ事の意味を決定しなければならぬが、私はそれは、此の文章で謂ふ第二の部分の活動を輕視し無視する事だこ思ふ。蓋し、第二の部分に依つてのみ、本當の共産主義政治運動は勃發せしめられるからである。

　民主々義政黨に參加した共産主義者が、假りに政黨の幹部になり、有力な代議士になつたこする。（それを心窃かに狙つてゐる『戰術』論者も勿論居るだらう。）そうして幹部の椅子の居心地に慣れ、黨務の日夜の繁忙に疲れ、第二の部分は一切忘れたこする。（恐らく此の場合、恐れる事は彼の立場の守護神であらう。）私は彼れに、本流を踏み外した野郞！この一喝を投げ付けるに躊躇しない。（實は今でも、そうなりたくてキリ〳〵舞つてゐる先生には、一喝の前拂ひをして置きたい位だ。）

　此の断定が誤つてゐない事は、共産主義者の全部がこうなつて了つて、第二の部分の活動から人影が消えた時を想像して見ればわかる。活動分子の一切が民主黨に納り返つたこ假定せよ。彼等も自分では俺の腹の中はタヾの民主々義ではないこ言つてゐるだらう。而もそれは、タヾの政友會でないこ言ふ政友會員が、除名せられない限りは結局タヾの政友會員に過ぎないこ異らぬ。そうして、眞の共産主義的運動は一切地を拂ふ事こなるであらう。

　反對に、活動は全部第二の部分に集注せられたこする。如上の論述が誤つてゐない限り、共産主義的勢力は、刻々高められて行くであらう。そうして第一の活動は全く無くこも、それがあるこ同樣の實質上の變化が民主々義運動の全面に呼び起されて行くであらう。

六

　されば、如上の意味での本流を踏み占めて行くべき實際方策如何。それに完全に答ふるには、先づ所謂第二部分の運動の實質こ形態こをより精確により具體的に説明してかゝる事が必要であるが、それは到底こゝで説明し盡さるべくもない。それで、こゝでは重要な條件の一つこして、民主々義的政治運動に參加し得べき共産主義者の資格を擧げて置く。それは先づ、智識的にも情意的にも共産主義を充分把握してゐる人でなければならぬ。第二に、政治上の個人的野心を抱かない人でなければならぬ。『議政壇上の花形』こして新聞に書かれたいやうな男、政界の名士でありながら勞働服を着て見るこ言ふ變態生活に奇妙な誇りを味つて見たいこ言つたやうな男それ等に取つて必要なものは共産主義運動の『本流』ではなくて『ニセ流』であらう。

生命の換算

　資本主義の世の中では、勞働は一個の商品である。而るに勞働は人間其自身こ不可分のものであるから、曰はゞ一定の時間に於て、勞働者は一個の商品である。更に娼妓の如きに至つては、明らかに商品こして買入れられたものである。要するに資本主義の世の中では、人間は貨幣に換算されるのだ。

　所が此頃では又、人間の命その物が極めて安い刑罰に換算されるこさが、流行つて來た。『大杉榮外二名の者』の生命は、一個當り三年强に換算された。朝鮮人十名の生命は三年の懲役、即ち一個當り三ヶ月强に換算された。所が龜戶事件の如く、九個の生命も零にしか換算されない所もある。而してこれが資本主義の世の中こ云ふものである。理由はあゝ云ふ際だから仕方がないこ云ふのた。即ちあゝ云ふ相互扶助を僞すべき際に、却つて反對に無辜の民を殺して、それで仕方がない、こ云ふのである。何んこ見上げた論理じやないか。

　この換算法の中に、殊に眠らんこして永久に眠り得ないのは恨みを呑んで非業に斃れた××諸君の魂である。××虐殺數は、當時最高の數字をあげた東朝紙に依つても尙、五百有餘に過ぎなかつた。而るに最近ある方面の××諸君の調査した所に依れば、既に判明した分は二千六百三十五人、豫想數は五六千に上るだらうこの事である。而してこの大部分は、我が光榮ある××××に依つてイクール零に換算されたものである。

　噫、××諸君の霊、何時の時にかよく慰むるを得ん。恐らくは鬼哭啾々こして、永しへに宙に迷ふて止まないであらう。（石川）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

マルキシストの立場

田口運藏

普通選擧も愈々實現しそうだ。階級鬪爭說を把持して人類解放の前衛團を以て任ずる我々社會主義者は當然の道程として、この好機を最も有効に利用しなければならないのである。階級爭鬪は政治運動に於いて最も明白に表示さるゝ。この意味に於て、我等日本に於ける社會主義者が議會利用策を採用することは、一段の進歩と云はなければならない。如何に環境が然らしめたとは云へ、從來の日本の社會主義運動は單なる思想的運動の範圍を脫しかねてゐた。それには幾多の主なる理由があるにもせよ、社會主義者の多くはシンヂカリズム、アナキズムの感化を多量に受けてあつたゝめに無意識的に極左派の立場から議會利用の戰法を絕對に否認してあつた。或者は秘密運動のみが過激であるものと考へ、非合法の手段をマルキシストの採るべき策戰の唯一なものであるとして合法的手段の總てを社會政策改良主義者の常套戰法と見なし、全々これを卑下し放棄したのである。この勇氣と氣分は愛すべきではあるが、これは實現の可能性と周圍の形勢とを無視したる思想の未熟から來る處の主張である。然しながら、議會利用策の一方に全勢力を集中して、直接行動乃至總ての非合法手段をアナキズムの主張として排斥する事は未だ吾等マルキシストに取つて最も怖るべき墮落である。これが第二インターナショナルの首領等をして遂に日和見主義に腐敗せしめ、ひいて第二インターナショナルを崩壞せしめた原因となつたのである。社會主義歷史家として知られ、第二インターナショナルの理論的方面の指導者である、カウツキーの俗物化せるもこれに依るものであるこの種の理論と態度は、たま〳〵反動期に於ける社會運動に於いて惹起しやすいのである。ビスマルクがドイツに於いて例の社會主義鎭壓令を斷行するや、幾多の似而非社會主義者の智的分子は社會民主黨を離れたのみならず社會主義の原理論に於いてもベルンスタインの修正派が擡頭し始たのである。社會主義の道德化が即ちこれであつた、マルキシズムの革命的眞髓を社會主義理論から骨拔きにしたのである。社會主義修正派が優勢を示し果ては歐洲の總ての社會民主黨が、一九一七—一九二〇の革命時期に於いてすら、プロレタリアートの利益を裏切りブルジョアジーに傾いたのであつた。こゝに於いて、マルキシズムの革命的原理を信奉せる社會主義者等は自から『社會民主主義』の名を棄て共產主義の名のもとに第三インターナショナルを組織しこれに抗戰したのである。

（二）

吾等マルキストを以て自任する日本社會主義は目下の反動期に於ける議會利用策に對して特に、充分に、以上の歷史的經驗を考慮に入れなければならない。吾等が議會運動に乘り込むには幾多の危險墮落とがその前途に橫つてゐるのである。多くの危機の中に於いて最も恐るべきは日和見主義への墮落である。そしてその芽は吾等の仲間の或者に於いて見る事が出來る。ロシヤのボルジエヴ井キ黨の勝利は、彼等が採つた、一九〇五—一九一七までの戰法に依つて充分に立證さるゝのである日和見主義者とは當然に決行すべき時と場合に敢へて行はないのである。否、行ひ得ないのではなくて決行する事を欲せざるの徒を日和見主義者と云ふのである。これに反して、マルキシストとは常に時と場合に順應して、必然の犧牲を賭して無產階級の利益のために突進する實行家を云ふのである。

勿論普選そのものは或は吾等の豫期に酬ひぬであろう。がとにかく普選は勞働階級の階級的意識の濃度を計り告ぐるバロメーターである。目下の制度に於ける普選なるものは自由民主々義者の目的とするところで吾等社會主義の主張に取つては終局の役目を演じ得るものではないのである。この適例は目下のドイツ共和國の苦境によつて最もよく明示されてゐる。然しながら、反動期に於いて吾等の勢力地盤の增殖のため、プロレタリアート及び小作人階級の利益擁護と生活向上とのため充分なる注意と警戒とを以て吾等の努力をこれにそゝぐは決して無用のことではない。

社會主義運動が政治舞臺に乘り出すせつなに墮落と危機とが伴ふと云ふ單なる理由に基きてこの好機を逸するは確に馬鹿な行爲である。勿論それにそなはる丈けの覺悟と意とを以て準備する必要はある。虎穴に入らずんば虎兒を得ず。失敗の經驗がやがて次に來る勝利への案內者である。

（三）

最近は日本の同志間にも普選はブルジュアリベラリストの主張である。これは墮落より來る犧牲のみが多くて、吾等の得るところは少ない」と云ふ名のもとにこれを排斥する者のあることを聞いてゐる。これは正しくない。例へば、今こゝに自由民主々義が帝國主義の撲滅のために普選施行の爭鬪にあると假定するその際に社會主義者は、普選は我等終局の目的にあらずとしてこれに援助を與へず拱手傍觀の態度に出でたならば、その行爲は無意識的に帝國主義を擁護する結果を敢へて演ずるのである。この場合に於いては、吾等はかゝる愚策に出で、總ての反動的主張を援

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

くることを欲しない。吾等はよろしく自由民主々義と提携して、一日も早く帝國主義の撲滅のために自由民主々義を援けなければならない。そして帝國主義的斷末魔に到達するまでに、吾等の組織と準備とを完成すべく努力しなければならない。帝國主義の崩壊と同時に吾等の武器は、それまでの道伴者で僚友であつた自由民主々義に對して向けかけなければならない。これが吾等のマルキシストの普選利用の眞意であらねばならぬ。

社會運動も一の戰爭である。いかに大勢の軍兵を擁するも戰術の如何に依りては豫期の効果をおさめる事は不可能である。

(四)

ブルジュアの下に於いてのプロレタリアートの議會運動はいかに努力しても、その地盤を確立するまでには相當の長年月を要するであろう。そして普選の結果に於いても最も利益を得るものは資本家階級であつてプロレタリアートではなかろう、なぜならば經濟的にも、政治的にも日本帝國の現勢はブルジュアーの利益のために普選を必要とするからである。されば、この點よりしても日本の社會主義者は議會政策に對して充分なる注意を拂ひ、あまりに近視眼流の見地を採つてはならない。吾等は徹頭徹尾マルキシストの立場からプロレタリアートと農民との接近のため議會政策を利用すべき時機に遭遇してゐる。

私は政治運動に對するマルキシストの立場を述べて大いにこれの利用を主張する者である。(十一月三十日)

共産主義者とエセ革命家

山本小三郎

ブルヂョアの急進主義者や或ひは社會民主々義者を中心とした合法的政黨組織、乃至政治運動がやうやく盛んにならんとしつゝある。それと同時に共産主義者は之等の運動の渦中に這入つて行くべきか又は、合法的、改良主義的運動の圏外に在つてプロレタリアの眞理を掲げ、それ等の運動から孤立して居るべきかゞ問題となつて居る。

共産主義者は現在の政治機關を通じて、所謂合法的に無産階級の解放を成し遂げやうとは考へぬ。又資本主義的社會制度の下に於て無産階級の地位が幾分改良される事を其目的の全部とするものでは勿論ない。

然しながら共産主義者は、解雇された勞働者が失業手當を取るべく、法廷で資本家と爭ふ場合に、それはブルヂョアの國家機關を通じての合法的な爭ひだからと云つて打捨て置くと云ふやうな事はせない。又賃銀値上のためのストライキの行はれて居る場合、矢張りそれは資本家社會の下に於いて勞働者の地位が幾分改良されるに過ぎぬからと云つて、冷淡に構へて居る譯ではない。

共産主義とは、資本家社會の矛盾を指適し、其矛盾のために現在の制度は必然的に倒壞し、やがて搾取と被搾取、支配と被支配のない新社會が産れ出づる事を教へる學問である。そして共産主義者とは共産主義の教條を信奉し、無産階級的に組織し鬪爭に依つて資本家制度を顚覆するために運動に身を投じて居る人々である。であるから若しも無産階級の大衆が、日常生活の些々たる地位の改良のために改良運動に熱中して居るならば自ら進んで其中に加わり、其鬪爭に參加しながら其鬪爭に依つて大衆の眼前に資本家社會の矛盾を暴露し、無産階級の大衆にプロレタリアの眞理を教える所の人々でなければならぬ。

無産階級の日常の經濟的鬪爭に無關心である者は共産主義者ではない。それは科學的社會主義の教條に悖るものである。それと同じく大衆が合法的政黨の組織を望み、改良主義的運動に參加して居る時それ等から孤立して居るならば、其人は共産主義者ではなくてエセ革命家である。

共産主義者が改良主義的運動、乃至は政黨組織の運動に參加すると否とは、其國の當時の狀態と無産階級の自覺の程度如何と云ふ事に依つて定る問題であつて、共産主義者は改良主義的政治運動に參加すべきか否かと云ふ抽象論に依つて解決さるべき問題ではない。

若しも大衆が改良主義的運動に熱中して居る、其運動に參加する事に依つてコムミュニズムの本流を踏みはづすやうな人は、實は元々コムミュニズムの本流を踏んで居らなかつた人なのである。尤も、此のやうな人が、今、共産主義の假面を被つて居ないとも限らぬ。それならば、その人達の假面をかなぐり取るのに今度の傾向はよい機會だと言はなければならぬ。

毎月一回一日發行
建設者
東京市池袋九三〇
建設者同盟本部

毎月一回一日發行
農民運動
東京市外日暮里三九一
農民運動社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

コムミユニストと組合運動

今吉一雄

一

此の度の選舉權擴張豫想に依り急速に熱度を高めて來た政治運動は勿論社會民主々義的なるものであつて、今日の吾國の情態から見てとてもより完全にして健全なる主義主張を持つた議會運動は不可能である。

而し普選がそれ自體既に議會政策の一進歩である以上、吾々社會改造を企てる個人或は團體に取つては惡い傾向ではないと共に、普選が生きんとする社會民主主義的な政治運動は吾人にもつて不利なる狀態への進展であるとは言へぬ。唯この時に當つて吾々が最も注意しなければならぬ事は、吾が國のコムミユニストも歐洲のそれの如くほぼ同じ四圍の狀態に置かれるに違ひないと言ふ事である。この事はコムミユニストが斯ふした議會運動の中にあつて活動せねばならぬ運命の暗示を意味する

二

然らば此の秋に當り吾人は如何なる信念の下に邁進すべきか、又如何なる態度を採る可きかは蓋しコムミユニスト今後の運動に於て最も重大なる影響を與へるものである事を信じて疑はぬ。

抑も共産主義運動の可能性は健全なる勞働組合運動を指導する事と、それを應援する事に依りて而已實現されると言ふ事は過言ではあるまいとこれは現在日本に於ける總同盟の如く同じ勞働組合とは言へ昔日のそれではなく今や組織としては産業的であり又精神より見て無産階級全般の責任を負ふを辭しない程度迄進歩し來れるを見る時、何人も否定する事は出來ない。

而もその勞働組合が今や議會政治界に乘り出さんとしつゝある、コムミユニストは彼等勞働組合が組織する政黨に對し充分なる指導とそして援助とを送らなければならぬ。斯くて無産階級の新戰線は自由主義への墮落から防がるゝと同時にやがて擡頭し來る可き社會民主々義的な政黨の勢力をそぐその力や與つて大である。此の意味に於て、コンミユニストはその努力の大半を勞働組合の政治運動に向けねばならぬ。

三

一體、權力の弱い者が權力の大なる者に交る時同化し易いものである。社會民主々義への墮落、輕薄なる政治運動への血迷ひ、これは往々にしてその本流を踏み外す危險のある事はコンミユニストにとりても勞働組合運動指導者にとりても同じである。これは一面に於てこれらの危險から逃れむが爲めの用意が勞働運動者もコムミユニストも同じ事物に對する注意に依り事足りると言ふ事を示してゐる。

勞働組合の政治運動に對し指導し、——或は援助するコムミユニストは、同時に勞働組合の經濟的鬪爭とその進展に注意を拂ひ、この方面にも指導と援助の大半をそゝがねばならぬ。

これを要するに、コムミユニストは單なるコムミニユストとして自分自身の意圖を直接に議會政治界に投ずる事は不得である。こゝには多くの危險の伴ふ事を忘れてはならぬ、勞働組合運動の浮沈は又コムミユニズム運動の浮沈である。共産主義運動の本流は勞働組合運動の中心を流れてゐる。

四

勞働組合の政治運動は如何にして最も有効なるものたらしめ得るか共産主義運動に取つて、此の事は最も重要な問題である。共産主義者の研究は、先づ主力を此の點に注がなければならぬ。それと同樣に、純眞の自由主義者純眞の社會民主々義者から言へば、勞働組合の政治運動を、如何にすれば自由主義、社會民主々義の爲め有効に利用し得るかと言ふ事が重要な問題であらう。

そこで、此の問題の解答に於て、コンミニユストは、自由主義者社會民主々義者よりも優れてゐなければならぬ。それが、コムミユニズムを勝者たらしむる絕對の條件であるそうして此の事は自由主義運動などに聯盟して進む時に於て特に肝要である。

獄中より

堺利彦氏の手紙

▲ヤツト近頃手紙が出せる樣になつた。少しは浮世の風に當る事も出來る。僕はおかげで至極健全だ。消化不良は持病だから仕方がないが、それでもパンや辨當はうまく食つてゐる。數日前からメツキリ寒くなつたが、ドテラを着込んで丸くなつて本を讀んでゐる。

▲進め社は大阪へ發展の由、これは大いによい事と思ふ。折角御奮勵を祈る。東京では伯爵と浪人とが何かやると聞いたがこれも丁度時機に適した似合の仕事だらうと思ふ。窮すれば通ずよくしたものだ。色々變つて行く處が面白い。

▲僕は歸つたら大阪へ芝居見に行きたいと思つてゐる。どう云わけかこの頃頻りに芝居が見たい。

▲外にも死んだ人があるだらうがこちらでは川崎君が死んだ。若い人はどうも脆い。其代りに年寄りは、成べく長く生きてゐる積りだ、ツイ先日（十一月二十五日）五十三回の誕生を迎へ宅から差入れのアヅキ飯を食つた（十二月六日）

此の手紙には一切、アタマの事を書いてないが、頭は益々見事にハゲて居る。之ばかりは寒いからつてハヤす譯にも行くまいから。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

「說明樣式」の變更として

平野學

山本内閣がその政綱の中に普選即施の一項を掲げてから合法的政治運動論―政黨組織の問題―が殊にやかましく論議されて來た。既に勞働團體並に思想團體等の間にはその具體的計畫が着々進んでゐると聞く。

無產者政黨の樹立の劃策とそれを肯定する人々の主張の内容には二つの論據がある樣に思はれる。その一つは「議會運動否認の經濟的直接行動一天張りの一元論は、無產階級發達の現實的効果を充分に知らざるもの丶タクチックで、議會運動を爲す事に依つて勞働階級に與へられる危險は豫め目の梁を取つてかゝれば容易に取り除かる可きものである。だからして無產階級發達の十分なる現實的効果を擧げる爲め又同時に鬪爭心理を發揚する爲めには積極的に議會運動を爲す可きであると。その二は日本の政界には時代錯誤的封建勢力が未だに厳然と其根を下してゐる。一日も早く此の勢力を一掃してデモクラシーを招來し社會進化の發達を期せねばならぬ。それには普選實施と同時に議會運動を爲すに限ると云ふのである

巷間に傳へられる之等の議論は相當妥當なものと考へられるが若し此の第一が無產階級發達の現實的効果を十分に擧げる爲めに、經濟的直接行動の一元論を棄てブルヂョアリベラリストと提携し議會運動の一元論で行かうと爲すのなればそれは取るを得ないのである。何故ならば議會を通じて得られるものは社會政策の範圍を脫しない、從つて無產階級の十分なる發達は期し得られないから。無產階級の眞實の發達を期するには常然合法的政治運動と同時に經濟的並に政治的非合法運動を併立して行ふ可きだと思ふ。議會運動の肯定は「思想内容」の變更でなくて「說明樣式」の變更―「政策範圍」の擴張でなければならぬ。思想内容の變更は明白なる變節であるからである。

次に第二普選の實施と無產階級政黨の樹立とによつて、封建的勢力を打破し、デモクラシーを招來せんとすることは御尤な事である。世の所謂デモクラシーは、無產階級政黨の樹立の如何に不拘普選の實施と同時に必然的に生れ來るのであらう。然しそれは政治形態の表面上の形式の變化であつて權力、分布の内容迄直ちに更新さる可きものとは考へられないのである。然かもデモクラシーの確立によつて、吾國政界の特殊性たる進化的ならざる變化的現象を幾分なりとも緩和し得るものと思へばそれはや丶早計の怨があらう。日本の政治組織は有機的でないそしてその發達は進化的でなくて變化的であるなほ今後も公式的進化の道程を辿らずに變化的に發達し行く可き要素を多分に見出すし又封建的英雄的人物の突發的出現の可能性が多量に存すると思ふのである。從つて此の事は反動勢力の間の野心家の野心がその努力如何に依つては案外に實現の可能性を存すると同時に無產階級に取つてもその策戰と努力如何によつては案外容易に政治的變革を行ひ得る事を暗示するものと考へる。封建的勢力の打破とデモクラシーの確立の爲めの政黨運動もそれが熱烈主義であるならば幻影のあばかれる日が遠くはあるまい。

茲で問題は合法的政治運動に對する態度と具體的政策の問題に入る。之れは稿を改めて論じよう。

然しながら、自由主義や社會民主々義を内より蠶食する順路や方法を決定する事は重要である、若しそれを誤つたならばコムミニユストの抱負は一片の空想となつて了ふのであらう

激流を横切る者は、流れに逆つてはならぬ、流れに身を任して泳ぎながら、而も瞬時も向ふ河岸に泳ぎ着く努力を忘れられない、それを忘れた者の運命は激流に逆つた者よりも更に悲慘な溺死である。

運動に投じた動機

東京監獄　市川義雄

私の社會主義運動の一兵卒になつたのは極めて平々凡々の、經過をふんで來たにすぎない

強ひて特徴づけるならば（世間）に接した時は、尙充分に（眞直な心）を持つて居つて、世間を在るが儘にまつ直に見たゞけと言ふの外ありません

山川均

一體社會運動や革命運動に、投ずるのに特別の動機がいるとの考へが間違つて居ると私は思ふ

今の世の中にはあらゆる人を社會運動に引きつけるだけの用意が完全に出來て居ではないでせうか

それをまつ直に見さへすれば、ドンを聞いて飯を食ひたくなるのと同じやうに誰だつて社會運動に飛びこみたくなるのが寧ろ自然の人情だらうと思ひます

唯だ平々凡々と

振り返つて見るとなるほど感慨深いと云へば云はれるような出來事にも随分出會ひはしましたが、こんな出來事も今日まで私の思想を一變したり、私の生涯の方向を一變したりするような感激を與へたことはありませぬ、私は世間の事を知るにつれ唯だぢり〱と何時ともなしに今抱いてゐるような考を抱くに至つたもので、とりとめて之が動機だつたと思ひ當るほどの事は殆んど一つもありませぬ、從つて自分の考へをきめ生涯の方向をきめるために苦んだことも迷ふたこともそれほど突きつめて考へたことも、また大した決心決意をしたようこともありませぬ、私はたゞ平々凡々と、毎日三度の飯を食ふのと同じほど、尋常のことゝして今日の考へを抱いて居るに過ぎないのです

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

青年運動の責務

羽生三七

一

山本超然内閣の普選案氣分に促されて、本來のデモクラットの間には勿論一般社會運動の戰線全面に急に、デモクラチックな政治運動の氣運が擡頭した。これは幻想でも論理でもない。それは動かすべからざる事實として我々の前に存在してゐる。してみれば『俺はそんなデモクラシーは氣に喰はぬ』とか『それは共産主義の墮落だ』なんぞと高を括つてはゐられぬ筈だ。何程眼に手をあて丶も、耳を閉いでも、また氣に喰つても喰はなくても、これを回避することは、少なくとも問題の解決ではない。斯うした氣運の擡頭してゐる以上、我々は共産主義の本流を踏み外すことなしに、如何にして進む可きかを深く考察しなければならない。

勿論この考察はプロレタリアの政治運動を是認しての上の問題である。今更事新しく此處に言ふまでもなく、資本主義經濟組織内に於けるデモクラシーなんぞが、プロレタリアの生活を解放出來やう筈のないことは當りまへだ。然しこのブルジョア、デモクラシーと云ふ一時期なしに一足飛びにプロレタリアの獨裁に進展出來れば、それほど結構なことはないが、やはり此の一時期は當然經過するものと見なければならぬ。我々は焦燥的な政治的運動否認論なぞに關らず、此の時局を前にして、如何なる方法をとるが、最善の解決策なるかを熟慮しなければならない。

此の形勢を前にして我々が積極的に働きかけなければ、プロレタリアの投票權は殆んどブルジョアの利用するところと見て差しつかへなからう。これが僅か三萬や四萬の急進的な都市勞働者の運動のみがプロレタリアの運動と云ふならば格別、全國に於ける全プロレタリアを主眼として進まうとする以上、無産階級政黨は當然生れなければならぬものと考へられる。我々が飽くまで思想的純正をはかつて大衆と孤立するか、それとも我々が見て見ぬ振りをして居れば、ブルジョア階級がよろこんで利用してくれる投票權を積極的に我々のものたらしめるか、それは人々の判斷如何である。戰術と云ふ言葉は隨分無責任に聞こえるが、然しやはり積極的に進むことをもつて私は有効な戰術と考へるも我々が斯く云ふからと云つて、此の運動のみを政治運動と解してゐる譯でもない。たゞこれもプロレタリア政治運動の一部分を成すものと考へるからである。

二

廣く全國を見廻した時、思想的發醒を抱くもの丶如何に少數であるかは明らかな事實だ。大衆が如何に『偉大』であつても社會的教育の缺除は民衆の先驅者に血をもつて酬いる。社會的教育、民衆の啓蒙これは少なくとも社會改造を口にするもの丶當然爲さねばならぬ問題と考へる。

我等は普選の實施に依つて無産階級の代表者が議會に入り込んだ所で、それで民衆の生活が根本的に改革されやうとは思はない。ましてや此の天降り式な普選の氣分は政治教育の缺除してゐる民衆の多くを、尚ブルジョア候補の圏内に誘ふであらう。

然りと雖も私は尚政黨組織の賛成者である。然しその具體的問題は我々如き青年に理解出來やう筈がない。

唯私は政黨組織による階級權力の集中によつて、無自覺なる大衆を教化し、訓練することがプロレタリア運動の戰列を進展せしめる一法策と思考するに過ぎない。

然しこれは隨分な危險性を含んでゐる。これはまた隨分な冒險である。然し机上の名論によつて民衆の自覺が促されぬ以上、要は此の氣運是認の立つて、最も健實にコムミュニズムの本流を渡る可く思考する他はない。

政黨が組織されたかと云つて、これが一切の無産階級運動を代表する譯でもあるまい否これは無産階級運動の一部分に過ぎない。我々の目標とする所は資本主義社會の××であり、プロレタリアの確立にある。從つて議會外の大衆的示威行動がその決定的要素である。さればもとより組合運動は組合運動青年の運動として今後益々發展せしめなければならぬ。

三

私はこ丶まで考へて來て、事新しく青年運動の意味に想倒する。何時の社會に於ても青年は社會革進の原動力である。墮落し妥協せんとする老人閥を一蹴し、眞の正義に基づける運動を爲し得るものは誠に青年である。此の意味に於て、そして此の普選實施の氣運によつて、高められた政黨確立の形勢を前にして、私は更に青年運動の重要性を痛感するに至つたのである。

デモクラチックな政治運動熱は急速に高まつた。然し若しこれが共産主義の本流からの逃避を意味し、其の思想的訂正を意味するならば、我々は斷乎として反對するものである。

これは限られた範圍から大衆の運動に進む戰術の問題としてのみ是認さるべきものである。

再び言ふ。コムミュニズムの精神は現資本主義國家の××であり、プロレタリアー××の確立である。

此の眞精神確保の任務は我が若き青年の上にかゝつてゐる。コムミュニズムの本流を支持する爲めに、我が若き勞農青年團結せよ！

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

潜入と蠶食

谷口善太郎

コムミユニストの信條は、民衆の意志を完全に代表したものでなければならぬ。民衆の意志が、コムミユズムの本流を離るゝ事や、遠きにある場合に於ても、民衆をしてコムミユニズムに進み寄らしむる爲めには、民衆の意志を代表しなければならぬ。從つて其當時の民衆の意志の如何に依つてコムミユニストの表面は、或はリベラリストともなり、社會民主々義者ともなる。これは必ず右傾墮落を意味するものでなく、眞正のコムミユニズムの前に、リベラリズムや社會民主々義をして完全に征服する爲めの戰術であり技巧である。民衆の意志をしてコムミユニズムに導く爲めの手段である。

從來、日本のコムミユニズムの運動は、餘りに民衆と隔離してゐた憾みが無かつたか？民衆の意志と利害を代表してゐる筈のコムミユニストが支配階級への叛逆に急である中に、不識不知少くとも民衆の意志より孤立した少數者の國體——民衆より見て憎まれ者の立場に封じられた觀が無かつたか？今度の震災に於ける自發的の反動團體化に當面した日本のコムミユニストは此點に就て再三反省すべき重要な時機に立つて居るのではないか。震災を期として支配階級が操つた反動思想はすさまじい勢ひを以て勃興して來た。もし日本のコムミユニストが、從來の如き戰術を續けるならば、換言すれば左翼共產主義の一元的戰術を續けるならば、日本の無產階級運動は孤立無援の立場に行き渡つて了ふであらう。

普選實施の豫想が確實になるにつれて、所謂合法的政黨組織の機が濃厚になつて來た。恐らく此機運はラヂカルリベラリストと無產階級との結合によつて實現するであらう。そして此政黨は、封建的勢力より、ブルヂョア、デモクラシーを剝奪する爲めに、暫くは社會的勢力となるであらう。

無論此運動が其結果に於て無產階級の完全な解放をもたらすものでない事は、各國の無產階級が經驗した歷史的事實に依つて明白である。而し乍ら、此運動は社會改造運動上全然無價値なものであるとは云へぬ。第一に、ブルヂョアデモクラシーを剝奪する運動それ自體は、無產階級に取つては階級爭鬪の形を以て現れる。更に又ブルヂョア、デモクラシーの確立は、現在社會的及び政治上に二重の支配——官僚と軍閥——を受けてゐる日本の無產階級をして、現在より更に不利益なる地位に突き落すものではない。と云ふ美酒をも並べ添へてあるに至つては、民衆の多くの躍る事は當然である。

此運動に對して、コムミユニストは如何なる態度を取るべきか？この問に對して私は躊躇なく、參加する必要ありと答へる。コムミユニストが此傾向に對して、對岸の火災視しする事は民衆をして行くべき道をあやまらしめる結果になる事は明白である。と云つて、外部より徹底的な運動をなす事は、かへつて民衆より孤立するの結果を生ずると同時に、目下の外的事情が許さゞる條件にある。

玆に於てコムミユニストは所謂合法的政黨の中に沒する事を最善とする。民衆の進むべき方向は其內部より指導され自由主義、民々主義はコムミユニストの爲めに、一步一步內部より蠶食されろ！

二

この主張に對して、第一に向けられる反對は、斯の如き運動は共產主義の本流を踏み外す危險說である。然し乍らそは現在のコムミユニストを知らざる人の言である。もし斯の如き事をなし遂げ得ざる者あるとするならば、そはコムミユニストとしての價値なき者と云ふの他はない。

「選民」

全國水平社青年同盟機關紙

幾千年間、虐げられて來た特殊部落民が、墮落、暗黑の現代社會に、只一點の光明を認めて昨年三月三日京都に大會を開いた

顧みるに一年有半、吾が水平運動は燎原の火の如き勢で全國到る所の津々浦々にも「特殊部落民よ團結せよ」の喊聲は響き渡つた老人も靑年も過去に於ける僞善的改良策にあきたらず「特殊部落民の解放は特殊部落民自身によつてなさねばならぬ」ことを知つた

水平運動の第一步は量より質へ進んだ、第二步は量より質に進まねばならぬ

因襲に捉はれることの少ない、潑剌たる靑年は、靑年同盟の旗幟に馳せ參じた

部落靑年は今、ハッキリと靑年の歷史的使命を見詰めてゐる、それは過去幾千年間與へられたる「賤民」を「選民」に變へらるべき社會を獲得する事である

機關紙「選民」は部落靑年の思想と行動の表現であり、舵針器である

これまで我等は、本當に我等の意志を表示すべき機會を有たなかつた、今ぞそれを「選民」に求めるころが出來るけれども、我等の意志は紙の上にのみ表示されただけでは滿足され得ぬは謂ふ迄もない事だ。

我等の志を、先づ、紙の上に述べしめよ

搾取と壓服の地位より解放されんとする同志よ！吾々の行動を鞭撻し「よき日の爲に」聲揃すべく努力しよう（大阪岸野）

社會運動に投じた動機 (1)

◇新居格氏

中學の初年級から秋水氏等の出して居た「平民新聞」や「直言」の愛讀者となつて社會主義思想に共鳴して居た。長じて性格的にも思想的にも體驗的にも現在社會組織とはどうしても相容れない事がハッキリして來た。幾たびか職業を持つたがその悉くから何時も追放されて行つた。生存權さへ兎角拒否されやうとするのに運つては、我等は何を考へねばならぬか。新社會に對する憧憬の情も（理論的から云つても）強いがそれ以上に端的に抗爭を思ふよりは仕方がない。

それだけだ。

◇堺眞柄氏

何時の頃からか、社會主義は惡いものだ、大びらな事ぢやないと云ふやうな事が耳に泌みて居ましたそして父に「社會主義つてどんなもの？」ときいたものです。その頃は十三四で盛んに講談本を讀んでゐたのです。そこで父も一つ頭をひねつて「さあ、まづ佐倉惣五郎みたいな事をする事だ」と云つてくれました。そこで一度讀みつくした義民佐倉惣五郎傳を又ひつぱり出して逐一讀み返へしましたがどうしても惡くないのです。その後氣にソッコン打ちこみこそす

童話劇

食糧人夫

―刺殺された九人の同志の靈に捧ぐ―

横田忠夫

出場人物　母、その子、故老、村人一、二、三、四、五

場所　或る村里、破れ一軒家の玄關前

時　太古、曙が微かに東天を染めかけた曉

母「あ、お前はどうしても行くのかね。もう二度程もしくじつたぢやないか、一度目は崖から落ちて、二度目は大きな熊に襲はれ危い處を市兵衛さんに助けられて……お前は今度こそ懲りたかと思つたら、又しても今朝は旅仕度をして出る處、今度はもうお前は本當に歸つて來るまい。この老の身はお前に行かれた後は一體どうして生きて行くだらう村の人達とて村の掟を破つて行つたお前の母ぢやと云ふて誰も見向もして呉れないし……あ、あ、何んといふ不幸な子だろう！不幸な私だらう！ねお前停つてお呉れ」

息子「お母さん、私は私が怪我するより死ぬよりお母さんの事を思へば何より苦しいのです。私は今もお母さんの眠つてゐつしやるお顔を見て泣いてゐたのでしたその間にお母さんにみつかつたのです。しかしね、お母さん、どうか思ひ切つてやつて下さい。あの山の向ふには海があるのです。この村がかうして貧乏してその上飢饉が續いてお互に村の人が喧嘩計りしてゐるのを救ふには早く海へ行つて魚と言ふものをとつたり、又昆布と言ふものをとつたり、それから魚からとれる油といふものをともして一晩中家の中を明るくしたりする事です。私はちやんと道を迷つてこの村へ來た旅人から聞いて分つてゐます。一番目にしくじつたと言ふのは何遍も言ふ通り山の中程迄行つた時風が吹いて來たら、ふと今迄嗅いだ事の無いえならぬ臭がして來たのではつと喜んで山を驅け上るはづみに崖を踏み外したのです。あの匂ひはきつと海です。二度目の時は山の頂上近く迄來た時岩と岩との間から、ちよつと廣い涯ない青々としたものが遠くに見えました。はてあれこそ海ぢやないかと思つて岩の上へ登らうとしたら岩の蔭から熊が出たのでした山の蔭には海がありますよ。この村の人達の暮しをよくするには全くこの山を越して海へ通るやうにする外は無いのです。お母さん、私は行きます。海を村の爲にどんなに使つたらよいか又海へ行く道はどう通つたらよいがすつかり調べて來ます。一寸の間我慢して下さい。若し私が仕事が出來ないで途中で死んでも後で必ず誰かに村の爲には海へ行かなくてはならぬと氣がついて海をこの村の爲に使ふやうになるでせう。さうなれば私は死んでも滿足です。お母さん、お母さんはこの私を生んだ事を喜んで下さい私がかうして村の掟を破つて迄海へ行くことはお母さんと私とが生き甲斐があると云ふわけです。左樣なら泣かないで下さい」

故老出て來る

故老「さて〳〵蔭で聞いてると無理な若者ぢや。なあ（母を顧みて）お前さんの心の中に察しとる。泣きなさるな、わしがとくと、意見をしてやらう（息子の方を向き）なあ、お前、お前の氣儘からこの一人の母を心配させてその上この村の掟を破つてこの村を出ることは何んと云ふ阿呆ぢや。この村が貧乏で困るのは何時お前がわし等に云つたやうに人が殖えたりその割に畑が少いなどと云ふわけでは無いぞ。何十年といふ長い、決して、この村の者は周りの山を越して外へ出るなといふ掟を破つて海とかなぞへ行かうと言ひ出したお前が出てからかうして毎年旱續きでお米も麥もとれぬのぢや。あの鎮守の神樣がお怒りになつたのぢや。止めさつしやい。村の爲に止めさつしやいお母さんはこれ泣き崩れて居るぞえ。唯お母さんを泣かせお前の身を亡くする計りだぞえ。生き甲斐ある仕事だな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

れ、僕たところは一つも無いのです。その結果社會主義はいゝものだ　惣五郎のやうに殺される迄も懸命につくさねばならぬと強く々々感じたのです。

◇　前田河廣一郎氏

僕は不斷の搾取制度から喰み出された殺伐な動機と、幸德君其他のやられた事實と、もう一つは藝術的な立場との三つから成立するものと考へて居ます。凡ての思想的變化の如く、目に見えぬ不斷の壓迫は一番僕の性格に對して挑戰力であり刺戟であります、元來僕の父なるものが、一種の無頼漢であつて、未だにどこにゐるかわからぬけれど、可なり僕の今日の氣持を他動的に促して居るのです。

◇　羽生三七氏

小學校を卒へたばかしの少年の私に何時も暗い影を印したのは、家庭の貧しさであつた、級友の誰彼が學校で中學校の事を談じて居る頃から私は激しい憤怒に身を焦した。その取り殘された地位の回復を私は蓄財の中に見た、水車場の一隅の暗い幻想が亦失敗に終つて反動にセンチナンタルな文藝に走つた、今私の同志の數名はその頃からの親友である、三人五人私達少年は毎夜誰かの家に集つてはお互の不滿を語るのであつた、その文藝が問題の解決でなく一時のアキラメであると思つた私はいち早くこの空氣を遁れた。

(以下五段へ)

ごと云つて死甲斐の無い仕事にやめるのだ」

息子「おぢいさん色々有難う(反抗的に昂然として)旱が續いたのは私が海へ行かうとした前の年からです。それからこの村の美風とかになつて居る外へ出るなと云ふ掟はこの村の人達がまだ外から食物を運んで來なくても貧乏をしないずつと昔に作つた掟です。今この村が困つて來たから外へ出て食物をみつけて來るといふ事が惡い事でせうか。そんな役に立たゝぬ却て皆の害になる掟なんかブチ壞してしまひなさい。三四年も前からこの村の人達がうまくないものを食べて青い顔をして痩せてゐるのはこの掟とこの掟を無上のものと信じて居るあなた方があるからです。私は早く海を調べたり道をみつけそしてこの村の人々の生き〱した元氣のいゝ顔を見たいのです。おぢいさん。私は行くのだよ、私は勝利を確信してゐます」

村人、一、二、三、四、五、出て來る、皆鍬を擔いで畑に出でんとするいでたち。

村人一「どうしたんです。長老さん」

故老「このバカ息子が又山を越して海とかへ行くといふので異見をしとるが仲々言ひかへし計りしてきかんのぢや」

村人二「海なんて何處迄行つたつてあるものか」

村人三「さうじや〱又神樣の罰で今年も米がとれねえぞ」

村人四「こいつ海とかなぞへ行つておあしをたんまり儲けて來て樂をして遊ばうと云ふのだ」

村人五「母の恩と村の人の義理とを蹂みにじつて行くとは何んと云ふ畜生だ」、

村人一「村の掟を三度迄破る者は死刑だ」

村人二「道を迷つて來たあの旅人に化けた惡魔の味方になつてこの村を亡さうとするのだらう」

村人三「そんな奴は殺せ」

村人四「さうして海へやるな

一同鍬を振り上げつめよせる

「殺せ殺せ」

村人一、二、を押しのけて

息子　飛鳥の如く逃げ出す、

村人　息子を捕へて殴らんとす。

母、息子を殴らんとする村人五人の前に立ちふさぐ、村人一母を突き飛ばす。息子駈け乍ら

「お母さん。ごめんなさい私は行く、海へ行く。村の爲だ」

又暫く駈ける、村人遅れる。

息子「俺は憎まれてもいゝ……一年後を見ろ、お前等の爲だ。俺はこの村の食糧人夫となる事を喜ぶのだ……食糧人夫だ……食糧人夫だ」

村人遅れて後を追はず、息を切り疲れて戻る村人五、一人腕組して考へて居る。

二「ひどい奴だ。村の掟を破る位何んとも思はぬ奴は目上の者へでもなんでも反抗するんだ」

一「俺は轉ばされた時膝をすりむいた。二度とあいつを村へ入れるな」

三「又村へおめ〱戻つて來たらみつけ次第殺すんだ」

五、次第に群を離れて息子去りし方に行く。

四、五の方を向き「おいどこへ行くんだ」

五、反對の方へ歩き乍ら

「あの若い奴の話は本當らしい。あんな若い奴を一人苦るしめるのは忍びない事だ俺も村の掟より何より海とかへ行つて食物をとつてこの村の爲に盡すのだ。おーい待ていー」駈け去る。

故老皆を顧みて「あゝ我が村も終りぢや。」と長嘆息す。村人皆次第に不安と動搖の色を漂はす。

鷄頻りに鳴き旭光しばし輝きいでしが又暗雲に蔽はれて次第に悽愴なる朝景色となる幕

期が續いた、その迷へる私に直接の動機を與へてくれたのは今共產黨事件で在獄中の〇君である。〇社の狭い一室で熱血に燃ゐた〇君の氣焰に打たれた、あの東京の一夜が思ひ出される。

見舞金募集

銃劍の前に斃れた九人の家族を慰める爲め、せめて見舞金を贈りたい。

讀者諸君贊同を願ふ。

一、制限條件等一切なし

二、金額と氏名とを誌上で發表する

三、贈金に關しては一切進め社に委されたし

進め社

科學的社會主義者の空想

新井友三

A「僕は今度病氣でねてゐてしみじみ空想的社會主義の嫌忌すべきを覺つたよ」

B「下らないね。そんな事はマルクス、エンゲルス以來誰にでも分つてゐる筈ぢやないか。」

A「うむ、フーリエーやサンシモンやオーエンの空想的社會主義に今更愛想をつかす譯ではない。彼等が自分勝手に作り上げた瞬立にお客が思ふ樣に座つてくれるものと信じたのは全く馬鹿らしい話さ。僕の今度發明した空想的社會主義と云ふものはさういふ意味ぢやない。だから君に話さうと思ふのだ。」

B「いやに勿體つけるね。」

A「さう云はれるほどでもないが、要するに、身は一步もその社會の現實に觸れず一指もその研究に染めないで、徒らに悲憤慷慨ばかりしてゐる連中だ。つまり現實から游離して、現實とはちつともお構ひなしに自分の腦細胞だけをブル〱させてゐる人達だ。これが二十世紀の空想的社會主義だよ。」

B「それぢや誰かゞ云つた「天上の社會運動家」もその一人だね。」

A「勿論さ。併し天上の運動家ばかりではない。彼等の中には立派なマルキシズムの理論らしいものを持つてゐる者もある。彼等は資本主義は今やその最後の階段なる帝國主義の時代にありと云ふ。そして階級戰の白熱化、プロレタリアの獨裁、無慈悲にして許す所なき反革命の鎭壓などと凄い文句をならべる。彼等は勝手に頭の中に階級鬪爭を激成し、革命を起し、反革命を顛倒し、御叮嚀にも新經濟政策まで布いてゐるのだ。そのくせ日本の無產階級は今如何なる地位に置かれてゐるか、どうすれば最も有効に解放戰が行はれ得るか。今、日本の無產階級のなすべきこと、採るべき戰略は何であるか、と云ふ樣なことには振り向きもしない。彼等は容易に腦細胞だけの革命を起し得るが、社會の全體を根本的に變革し、人口の全部を捲き込む社會革命については少しも考へないそれは實に長年月に亘り、あらゆる方面での惡戰苦鬪を含む、大規模の仕事である。ブハーリンによれば――」

B「おやおや、」

A「それは四つの階段を經なければならぬ。第一に思想的革命、第二に政治的革命、第三に經濟的革命、第四に技術的革命だ。ロシアは漸く第一第二を通過したが、何時第三を通り拔けるか今以つて見當がつかぬ。彼等はそのために先づ資本主義を完成せしめることに努めてゐる。」

二

B「所が吾々はまだ第一にも達してゐない樣だね」

A「さうさ、吾々の思想は民衆の中に浸みこんでゐない。吾々はまだ民衆の支持を受くるに至らない。民衆と吾々とは赤の他人の樣である。吾々は彼等からともすれば他人扱ひにされてゐる。」

B「一體異樣な風をして革命歌を歌つて何になるんだらう無產階級の運動と云ふのは、二三若くは四五人の者が氣焰を上げたり、あたりの良民にあたり散らしたり、電信柱に反抗したりすることではない筈だ。彼等はそれによつて民衆の誤解と官憲の虐待の外何物も得られないではないか。」

A「全くだ。今度の地震で僕等は空想的社會主義者かさもなければデカダンである樣な氣がした。大衆の中へとか、民衆を組織せうかと言ふ言葉は單に言葉として頭の中で踊つてゐた樣な氣がする。眞に民衆の中へ這入つてゐれば、ありふれた社會主義者は平凡な、道理の分つた仲間として民衆の眼に映ずる筈であつた。しかしそれは少し許りの自己滿足や腦細胞の革命では出來ない仕事だ。地味な、コツ〱と煉瓦を積み上げる樣な、根氣の要る仕事だ。少しも見榮えのない、つまらなさ相な仕事だ。併しこれを除いて無產階級の運動はない。歷史を動かすものは元氣な革命歌ではなくこの大工の樣な仕事だ。」

三

B「大分話しに實が入つたねお互ひに空想的にならぬ樣、努めやうぢやないか。」

A「いやもう空想的やデカダンでは一步も進めなくなつてゐるからね。ほんとうに民衆の中に浸み入るには、彼等の生活經驗や樣式と離れたものではダメだからね。でもなければツルゲーネフの處女地の中のネツダノーフの樣に氣狂ひ扱ひにされるばかりだ。ネツダーノフが田舍で百姓を捉へてイキナリ「立つて、時は來たぞ！地主を投げ倒せ！」と叫ぶと、或者は驚いて彼を見詰める。或者は彼に少しも注意せずに行きすぎる。或一人は家へ歸つて、何だか譯の分らぬタワ言をわめいてゐるフランス人に遭つたと云ふ。それから倉の前に集つてゐた八人の百姓の前に立つて「自由！前進！協同一致！」と叫ぶぢやないか。」すると分らなさうに頭を振つて「きつい男ぢやねえかよ」と云ふものもあれば「何かのお頭だよ」と云ふ者もあつたね。それ位ならいゝが居酒屋で強い火酒を飲まされて叩き出されるぢやないか。僕はあそこを讀むとツクヅク空想的社會主義の悲哀を感ずるよ。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

南桑聯合會の「政治運動」

政治運動に關する考察の一資料

佐々木隆太郎

無產階級の政治運動が、當面の現實問題となつた時、こゝに一つのエピソードを得た。それは過般の府縣會選擧に際し、京都府の代表的小作組合、南桑聯合會のとつた行動である。我々は之に依つて、種々の暗示が與へられる。そうして、結局は、無產階級自身の團結こそ、最大の又最終の決定的條件である事を悟らしめられる。

「南桑聯合會」は、京都府南桑田郡十八ケ町村すべての小作組合が集つて組織した團體であつて、共數二千八百餘戶府下唯一の大團體である。然るに同郡の府議選擧總數は四千百五十餘票である。即ち萬一小作組合にして「我等が代表」を送るべく奮起—と云ふよりも決議をしたならば、それこそ戰はずして勝利を得る確信がある。

此確信が先づ小作人諸君をして、候補者を立て、地主階級に對抗せよ！我等の威力を示すは今だ！の聲を起さしめた。無論小作人諸君の目的は府會へ代表を送るそれで無く絕對多數の威力を以て、敵を突き落し、地主階級をして戰慄せしめる事にあつた。

此機會は、九月九日に聯合會委員會を開催する迄に進展した。此會議に於ては、幹部諸君の意見は、我々の代表を府會位に送つた所が何等の利益も無い事、例へ目的が地主階級を戰慄せしめるに有るにしても、未だ全國の無產階級の間に統一された決議の無い以上、階級戰の一角に於て獨斷的な行爲をする事の間違つてゐる事、我々の威力を示すには外にボイコット等の手段のある事等を主張したが、一般的の雰圍氣は、立候補說に向つてゐる事は云ふまでも無かつた。

此處に於て狼狽したのは、選擧期に入るや第一に候補の名乘りを上げ獨り舞臺に北叟笑んでゐた松尾茂美及び一派の地主階級である。彼等は先づ此難關を切り拔ける爲めに小作人を籠絡する手段を選んだ。即ち農政俱樂部と云ふ魔醉劑を以て小作人を訪問し同俱樂部員に對しては、低利資金の融通、農具肥料の廉賣等を爲す事を種々に說き廻つた。

然し乍ら、此手段に對して反つて小作人の反感は增し、十六日に開催した小作人の代表者會議に於て、立候補對抗を可決發表した。無論、小作人の團結の威力を示す爲めの運動である故を以て、候補者の誰なるかを發表しなかつた。此決議に對して、警察當局より調査に來た所、候補者はまだ詮衡中である。即ち選擧前日までに決定して、各組合に通知さへすればそれで充分である。今の所投票數は二千八百餘あるが、候補者は無い！と云つて驚かした。事實其通りであつたのだ。

地產階級の驚歎と狼狽は極度に達した。彼等は農政俱樂部員が斯の如き結果を生むとは知らなかつたのだ。最早や彼等は小作人の實力に對しては自己階級の餘りに無力なる事の恐怖を知つた。二十日に各全郡の地主總會は開かれ、各村長連中も加つて、此上は小作組合に對して泣き付くより手段の無い事を悟つた。

二十一日に至つて地主側の交涉員として、馬路村の村長淺田和一郎君が、我が聯合會長畑與三郎君の所へ泣きついて來た。窮鳥即ち我が懷へ救を求めて來たのである。

其處で畑君は聯合委員會を召集して、此問題に對する最後の討議をした。會議は二十二日の午前に至るまで續き、其間に數回村長淺田を呼んで油を絞り、特に情を以て立候補を斷念する事を告げて、此劇的場面を打切つた。斯くして小作人諸君の此問題に對する最後の勝利—我等が團結の威力を以て地主階級を完全に戰慄せしめ得たのである。然も其選擧結果を見るに、獨り舞臺である松尾茂美の得點わづかに二千數百票——即ち小作人の大多數はボイコットをやつてゐたと言ふ事實を、我々は知り得るのである。

今や普通選擧が實施されんとしつゝある。無產階級の戰術に於ても今後幾等かの變化が來るであらう。此機に處して我々無產階級の責任は又重大である。全國の無產階級團結せよ！團結の威力は最後まで絕對である！

政治的行動によつて、小作人が威力を示した事は、官憲に對する自信を養ふ上に多大の効果があつたらうと思はれる。小作人の官憲に對する退嬰的な心理や態度は、運動の上に鮮ならざる防害となる事は、運動に參加した者の誰も容易に經驗する所である。それが政治運動の機運によつて急速に進步して行くべき事は政治運動を含む意味の一として重要視しなければならぬ。

第二に、政治運動は個々の組合を統一する作用を持つてゐる。此の點も亦、輕視する事は出來ないであらう。

社　告

本社は新年に當つて全國各府縣に一二ケ所宛支局を設置したい

一、運動上に本社と步調を揃へて全國的に活動する事

一、地方の狀勢や運動等に就き時々本社に通知する事

一、「進め」の販賣に努力する事．郵券代位は本社が負擔する

右の各項御諒承の諸君は本社會計係宛に申込んで貰ひたい委しい事は又通信に依つて打合せる

大正十三年一月

進め社

檄する書十篇 (2)

青年敎員に與ふ

横田忠夫

私はかの若いに關らずコツコツ貯金して將來商店を始めやうこか、つて居る所謂敎員間の『若朽』や恩給下附の日を算へ視學の意を迎へるに汲々たる老校長は問題にしない。私は敎員の職を『天職』こ思ひ、毎日勇んで出勤し兒童を愛し訓へ人生の意味を是に見出さんこ力めてゐる若い青年敎員諸君に訴へるのだ。

(一)敎壇上の苦痛

諸君は兒童を愛する慈む、諸君は毎日生徒こ話すことを快樂こして居る。親子の情も及ばぬ程、或は溺死せんこする兒童を身を挺して河中に飛び込み救ふ程兒童を愛する。而るに諸君は時々兒童の能力が不平均のため思はず敎壇上で腹を立て、兒童を叱りつけ後で後悔し涙を垂れる事がある敎授週錄、敎案の豫定通り歩まぬ程苦しい事もない。然し諸君は飽く迄勇猛なる愛情を振り翳して薫陶の結果幾分兒童の成績は進むこする、而も新學年の際受持が他の敎員に變つたり、諸君が轉任したりした結果は結局諸君の努力は全く水泡に歸する。自分の敎へ慈んだ兒童が後の受持敎員のため荒んだのを見る事は實に斷腸の思ひだこ思ふ。諸君！今諸君はこの根本原因を究明しなくてはならぬ。

兒童に能力の不平均を來すのは何の故か？一時は自分の淋びしいポケットから支出した金に依つて讀本や雜誌や鉛筆も買ひ與へる事が出來る。然しこの問題の根本を考へた時に諸君は憮然こして『あゝ、我が力を以て救ふ能はず』こ嘆聲を發するだらう。

實に或る兒童は雜誌も讀本もノートも不自由せず且旅行したり父母の話を聞いて豫習復習に自由に發育盛りの智識慾を滿す事が出來る。然るに或る兒童はボロ〳〵破れた讀本を讀み、ノートなく筆なく、加ふるに家に歸つては數多い弟妹の子守、又納豆賣夕刊賣をして家計の一助こしなくてはならぬ。そんなわけで時々缺席もする。先天的の能力こ云ふ事は勿論影響があるがこの重大な原因には誰でも氣はつくが一時の給與か而らずんば默視に終つてしまふ。かうして此の成績の優劣は父兄の生活の貧富の差より來るこ云ふ事實の儼存する間諸君の眞摯なる奮鬪も燃ゆる如き愛も遂に循環小數の如く又砂上の樓閣の如くに終つてしまふこ云ふ事を知らなければならぬ

(二)奮鬪力の束縛

諸君は亦受持の兒童を愛する如く亦學校をも愛する。その限りない青年特有の奮鬪努力の慾望は諸君を馳つて全校生徒の秩序規律の整然たる訓練職員間の研究討論に力める。されご悲しい哉。懶惰な敎員の受持の生徒は諸君が秩序あり規律ある訓練に對して寧ろ『嚴しい先生』のニックネームを以て報いるであらう。研究授業、協議會等で一校の成績向上の意見、敎授方法の革新等に於て校長の地位をねらふ主席訓導、視學の意を迎ふる校長の爲、何等の根據無き形式論や儀禮因襲の踏襲に依つて一蹴されるであらう。校內の革新の愉快を得られなかつた諸君は讀書や雜誌講演會等の意見發表やに依つて戰はんこする。而もそこにも亦村長學務委員それから地主等の迫害を受けなければならぬ。トルストイの研究や又社會學の著書一册を購求した事に依つて村會青年會の不信任狀をつきつけられ泣いて兒童こ別れなければならぬ運命に逢ふ事も往々ある。

かくして有爲の青年敎員諸君は何處を訪ね何處へ行くのだ退職せんには師範學校の辨償金の重荷がある！

(三)將來の大任

諸君は遂に煩悶憂鬱に陷る、陷らなくてはならぬのだ。然し一度眼を鋭くしてこの事實を究明した時この煩悶の諸事實の一切の解決が目の前に展開されて居る事が明白になるのだ。學用品の不足、能力の不平均、營養不良の兒童、校長同僚の懶惰や事大思想、父兄のブルヂョアの迫害等一切の諸君の進路を阻む事實を一掃し兒童を限りなく愛し慈み且諸君が才能の最善を傾けるを歡迎する新社會が諸君の歸趣の如何に依つて早晩來るべき事を自覺するであらう。

前掲の諸君の苦しいいやな立場は素より一度國定敎科書の內容を檢討したならば悉く支配階級の僞瞞、卑劣なる自家階級擁護のため幼い兒童に與へた麻醉劑たる事が明瞭な答だ。孝悌こ云ひ信義こ云ひ博愛こ云ひ國家こ云ひ社會こ云つても今日のプロレタリアは既にその詐術を看破した、

諸君はこの諸事實を知悉しても尚階級對立の社會の如何に不合理なるに氣づき新社會建設の事業に來り投じなかつたら諸君は自己の正義觀や良心に叛き尚支配階級の代辨こして、プロレタリアの裏切り者こして私は『かたり者』であるこ斷言する。即『プロレタリア』べき芬芳の報酬こして却つてプロレタリアの汗水の金に依つてパンを得つゝあるから『かたり』だこ云ふわけだ。

若き敎員諸君！諸君の自由に操縱し得らる、五十か六十の兒童をしてプロレタリアの前衞隊たらしむる決心あれ兒童を愛するならば諸君の如く自由を拘束さる如き『時代』の人たらしめざらんここを願へ。諸君の將來の任務は重大である。プロレタリア解放戰の途上にある者は諸君の良心の向背や又新社會完成の途に於て諸君の大任の忽にすべからざるを衷心より望んでゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

慨世憂國の青年に與ふ

岡陽之助

諸君は慨世憂國の青年である。擧世汚濁！まことに諸君の言の如くである。諸君は之を默視し去ることが出來ないか。諸君が敢然立つて政界革新を天下に叫ぶも亦無理からぬ事である。私は、その赤誠と意氣とに於いて、大いに諸君と一脈相通ずるものあるを感ずるのである。

私、思ふに青年には大體二つの型がある。その一はエゴイストの徒である。自分のこと以外には指一本動かすこともせぬやからである。資本主義の素町人文明は、大分に此の種の青年を生み出したもの、如くである。私はか、る根性の青年を相手にして語らうとは思はない。他の一は所謂身を殺して仁をなす底の青年である。この種の青年こそ我黨の士である。私は諸君を實に此の型に屬する青年諸君と信ずるが故に、胸襟を開いて談じてみたいのである。

それはさておき、諸君は口を開けば明治維新を說く樣である。恐らく、身を挺して活躍した青年志士こそ正に諸君が理想する所であらう。その點、私も諸君と感を同じうするものである。

謂ふ迄もなく、明治維新は封建制度倒壞の革命であつたのである。乃ち德川を初め三百諸侯なる搾取階級が平民百姓の勞働の上に安座して「枝も鳴らさぬ泰平」の夢を見てゐたのである。けれども、もとよりか、る不義偸安の夢が永く續くものではない。當時の民衆の先驅者は早くも此の形勢を看取して討幕運動を起したのである。此の民衆の先驅者が即ち諸君の理想する維新の志士なのである。つまり維新の志士は階級鬪爭の鬪士なのである。なまぬるい改良主義者でなくして、命を的の革命家だつたのである。されば幕府の之に加へる壓迫も殘虐を極めた。有名な安政の大疑獄もその一つである。つまり今日の「過激社會運動取締法案」を物も言はずに斷行したのだ。その他新選組なる幕府の御用團によつて殺された志士の數も少なくはない。これは恰も國粹會や赤化防止團に當るもので、いつの時代にも、時代に盲目な馬鹿者が時の權力階級の飼犬となつて人に嚙みつくものと見へる。

諸君が維新史を繙いて、青年志士の慷慨悲歌に胸打たれるのも實に尤もなことである。けれども諸君。歷史は繰返すといふ。維新革命は決して過去の出來事ではない。今や、それは、その內容を變へて再び出現せんとしてゐるのである。即ち、多年搾取の苦しみを忍んで來た無產階級が資本階級に抗爭しつ、あるではないか。各所に頻發する勞働爭議、小作爭議を諸君は何と見る。日々に增大し行く社會運動の勢力。之に對する官憲や反動團體の惡辣なる對策。諸君は、もはや一刻も躊躇すべき時ではあるまい。而も、これは、決して、我國の青年のみの問題ではない。萬國のプロレタリヤ青年が協力して仕遂ぐべき畢生の大事業なのである。國家主義はブルヂョアの野心である。プロレタリヤが、ブルヂョアと抗爭する時國境はない。それは恰も明治革命の青年が討幕の運動を起すや、各藩の同志と提携して立つたのと同じ理窟である。全世界を掩へる資本主義討伐の運動を起すに當つて、我々が國家主義よりインターナショナリズムに進むに何の不思議もない筈である。

我が慨世憂國の青年諸君。諸君は、國家を憂へるといふ併し現在の國家が、資本階級の利益擁護のためにのみ利用されて居る事を諸君は看破し得ないだらうか。社會に階級が存在する限りは、常に國家は、權力階級の用具と化するのである。されば最に、諸君が、國家をして民衆全體のものたらしむるためには、先づ國家權力を私用する權力階級を〇〇〇〇ならぬではないか。而して現在に於ける權力階級は資本階級である。

諸君は、政界革新と言ふ。けれども、政界の腐敗墮落は諸君の考へる如く政治家の無策や既成政黨の無能に因るのではない。資本主義制度なる土臺石が腐つて來たのに基くのである。資本主義の搾取政治そのものが、無產大衆の方向と逆行してゐるのに因るのである。從つて、政界が、墮落し腐敗するのは理の當然である。土臺石を根こそぎ取り換ふべき時が到來し たのである それを、同じく無產階級に身を置く諸君が、政界の革新とはおせつかいも甚しいではないか。そこで私は何か後から諸君をおだてる奴があるに相違ないと信じ、よく調べてみると果せる哉、居つたのである。これは曾てレーニンと原敬とを一緒くたにして心ある青年の輕蔑を買つた所の「新人」業である。「たとへ幾千のヨッフェ來たるとも」など、、まるで勞働露西亞を頭からコレラかペストの樣に考へてゐるあきれた「新人」業である。諸君が、かういふ「新人」をリーダーに戴いでゐ、氣になつてゐる間にも勇敢なるプロレタリヤ青年は、家を追はれ貧苦と戰ひ、官憲の迫害を物ともせず、只管新時代建設のため階級爭鬪の中に奮鬪してゐるのである。されど私は、飽迄も諸君を信じたい。私は諸君がいつまでも、現在の如きリーダーを戴いで居られるものとは思はない。階級意識のない愚論にあきたらなくなつて來る事を信ずる。なまぬるい議會改良主義では諸君の思想が承知が、出來なくなつて來る事を信ずる。その時こそ、私等と共に、曾て維新の志士が辿つたる荊棘の道を進まうではないか。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文學青年に訴へる

新居格

土の匂ひを五體ににぢ込ませた農村の青年、その人たちが大地の怒りを爆發させやうこ用意しつゝある事を我等は知つて居る。油こ汗こにまみれて工場に勞働しつゝある青年、彼等が資本主義組織の不合理こ貪婪飽くなき資本主義者の辛辣な搾取に蒼白きまでに物凄き反抗意識に燃えつゝある事を我等は知つて居る。

地下幾千尺、暗黑こ危險こに身を曝してしかもヒューマン、マシンの如く考へられてゐる鑛山の青年が何を何こ感じつゝあるかも我等は直ちに知る事が出來る。

彼等は云ふまでもなく革命の酵母だ。我等は彼等を衷心から、期待し感謝する。

だが、所謂文學青年、君等を我々は彼等のやうに同樣に僕等の立場から愛敬したここが合つてあつたらうか。斷じて云ひたい。決してなかつたこ。何故だ。

僕等は敢て云ふ。君等は社會的賓有、詰り社會組織の問題を關心事こしないか。だが少くこも稀薄なからだ。そうした矢張り個人感情を甘やかして、そこに換えがたき人生の價値があるかの如く不遜極まる謬想を逞しうするからだ。

君等の考へ若く空想するここは大體何であるかは君達自身が知つてる筈だ。僕等も僕等の立場からそれを知つてごんなに君等に失望しつゝある事か。

僕等は君等の一團が都會に又は地方に同好相寄りて何を詰り台ひ又ごんな風の雜誌を出してゐるかを知つてゐる。

君等の書く創作の内容が大抵ごんなものか詩がごんなに夢でつくつた花園のやうであるかを知つてゐる。

青春、その華やかさは僕等も知らぬではない、君等の感傷主義も青年にあり勝ちな自然であるこごも認める。

しかし、君等がそうした個人的甘美に醉つてるにしては今の時代的嵐はあまりに急調である事を考へたがいゝ。

君等のかよわい肉體は、君等には纖細に思へても勞働青年からごんなに侮蔑を投げられつゝあるか君等が官能的鋭感だこひそかに誇つてゐる神經質が大した事でない位は時代こ僕等こは知つてゐるのだ。

君等が今あるが如くいつまでもあるならば君等を侮蔑する位では僕等は止まない。君等はそこでも侮蔑されつゝある理由を君等に思索する習慣がいくらでもあるがそう今や考慮しなければならないご僕等は明かに告げる。

僕等は君たちに文學を捨て、了へこは強制するものではない。より以上により強く、社會組織の實狀を考へてくれこだけ云ひたいのだ。

それを考へてくれるこ否こが君たちを生かしもし、殺しもする。

再びそれが、文學を捨て、了へこは云はぬ。君たちが、農村の目覺めた青年、工場鑛山の諸君こ共に提携して新しいそして勇ましい發途をするためにはごうあつても捨て、貰ひたいこ云ふだけのここだ。

君たちは日本現在の文學者だけを考へてくれるのでは不滿だ。ロープシンの文學、アンリー、バルビウス、アントン、シンクレアの藝術も同時に考へてはくれないか。

そればかりではない、藝術はペンや紙や木片やガンバスだけに表現される許りでなく生活の勇敢なる擲彈そのものがごんなに緊張した藝術であらう事かも考へてくれないか。

君たちが敏感を誇るならばその敏感は個人感情の狹まい範疇を脫して、當然社會組織の不合理それから結果する悽慘暗鬱なる人間の運命をも君等の正義感が見逃すここは出來ない筈なのだ。

僕は君等に訴へる。今の世にあつて文學青年こ云はれるのは屈辱でありこても、誇りにはならないのだ。

僕等は君等に訴へる。君たちの情熱はほんのりした空想でほやかすのにはあまりに貴い事を。

で、君等のあらねばならぬ道にあつてくれないかこ繰返して訴へるのだ。

大臣に與ふ

大臣だけこ云ふ譯ではない大臣を代表者こするやうな、代議士だの、上院議員だのこ云ふ、色々のモノを一纒めにしてお話するのだが、あなた方は今の多數の國民、殊にプロレタリア階級の大衆の胸には日に々々あなた方に對する信頼や期待や親しみや尊敬を失ふて、輕蔑こ反感こ憎惡こがそれに變りつゝある事を知つて居るんですか。

昔は大臣なんて云へば、餘程偉い人だこ誰しも考へたらしい、今だつてそうだこ思つたら大變な間違ひです、それは大臣だから、自動車にも乘るし、金も持つてるだらうこは想像する、併しそれは、相撲取が強いだらうこ思ふのこ大した違ひのない感じである、人間こしての尊敬こか親しみこか云ふものこは全然緣が無い。

此の事は、いゝ事か惡い事かわからない、併し理窟上いゝにしろ惡いにしろ、明白にグン〳〵現はれて來る事實は誰だつて認めなければならない、僕等に取つては、他人の事だからこんな事はごうでもいゝが、諸君自身はごうでもいゝでは濟まされまい、一體之に對して、ごんな了簡でおいでだらう

併し、痛快は痛快だ、兎も角大臣が皆んなにナメられるこ云ふんだから。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

貧しき勞働者に

竹下信一

都會の、農村の、鑛山の、船舶の、その他一切の貧しき勞働者諸君よ。

多くの人は、貧しいから勞働すると考へてゐる。假りにそれが眞實であるとして、勞働する事は貧しさから脫する途であらうか。決してそうではない。『その父も、又その父も彼の如く、土を掘りつゝ土に入りにき』と言ふ歌がある農村の勞働者たる小作人の貧乏は、決して一代や二代だけのものではない、恰かも資本家の財產の如くに世襲である都會とでもその點に何の變りもない。賃銀取りの每日の生活を一日見れば、その勞働が彼の貧困を救ふ力の無い事は誰にだつて理解せられる。

働いて働いて働いて死ぬるその子も亦、父の跡を繼いで働く、働かなければ餓死するまでだ。勞働と餓死との十字街頭を、右往左往しつゝ、あえぎ／＼露命をつないで行くそれが賃銀取り階級全體の、子孫代々永久に縛り付けられた運命なのだ。

貧乏人は皆んな勞働してゐる。勞働してゐて、貧乏してゐる。此の貧乏は一體何から來るか。こう考へて世の中を見廻して見ると、世の中の大きな金持は誰も勞働してゐない事に氣が付く。

三井の主人の作つた米が一粒だつてあるか。古川の女房の織つた木綿が一反だつてあるか。大富豪とその家族及び彼等の愛護者は、勞働の爲めの汗は一滴も落さない事を、名譽とし誇りとし道德とし特權としてゐる。—但し、登山だのゴルフだの銃獵だの言ふ遊戯の爲めの汗は此の限りにあらず。——

働かない者は富んでゐる。働く者は貧しい。此の二つの事實を並べて考へて見る時、働くんだから貧乏するんではないかとの疑問が湧き上る。して見ると、貧しい勞働者は貧しいから勞働するのかも知れないが、同時に勞働するから貧しいと言ふ事になる。之は大變な事である。

一體世の中の富は、人間の勞働に依らずして一つだつて存在しない筈だ。それだのに働かない者が無限の發富を抱いて居るのは一體どうした譯だらう。一見如何にも不思議な事である。問題は實はこの一點にある。

併し、此の不思議は一方に働く者が貧乏してゐる事を見れば容易に解釋が付く。と言ふのは働く者が、汗や血を絞つて作り上げた富を、働かない者が何かの方法で取つて行くからなのだ。たゞそれだけだそれだけの理由で働く者が貧しく、働かない者が富む事となる。

そこで、勞働する者が貧しいのは、勞働するからだと言ふ理屈にも意味がある。つまり勞働しなくてもいゝやうな身分、言ひかければ自分が勞働せずに、人の勞働したものを搾り取るやうな身分になれば、貧乏しなくて濟む譯である。

そこで、問題を簡單に約めて言へば、諸君が貧乏するのは、生產機關を持つて居ないからなのだ。そこで社會改革の根本の眼の着け所はこの一點でなければならぬ。社會主義と言ふのは、此の生產機關が個人の所有から離れて社會全體の共有になる事を、主張する思想である。

運動に投じた動機

東京監獄にて　市川正一

何れも東京で新聞記者をしてゐた間の事件ですが、一つは大晦日の電車大罷業、一つは都下新聞社の大ロックアウト、前の場合には從業員が「市民」に挑戰したとか何とか例の輿論や學者がのゝしり立つたのがひどく癪にさわつて、市民公共、國家等の正體が始めてはてきり見ぬたやうであつた、後の場合には、印刷職工と編輯員との聯合委員を以て新聞社を管理するといふ概念が始めて僕の空想に上つて來たけれども此等は特別に何の動機といふわけでありませぬ、ブルジョア教育の泥水が深く浸みてゐる分長い間ぐず／＼と腐つた夢をむさぼつてゐました、それが近頃これでなければといふ社會主義に眼がさめがけたのは資本家社會が足もとから崩れるのがいやでもおうでも眼に見ぬる程事情が進んで來たのと、諸先輩の立派な言論にひきつけられたからでせう、僕なんかは社會主義思想に「かぶれた」方でせうが、ブルジョアのごまかし思想にかぶれたのが、今度は眞理にかぶれたのは何より結構だと思ひます、資本主義制度の破裂崩壞を片づけて、その跡をついで一層發達した社會をつくるのはたゞ革命だけでその革命の強力な道具はたゞ社會主義だけです、好んで資本家の手先、勞働階級の油虫たる者は別にして、今日の社會の實際の構造を一目でも見た者は早晩此の眞理に從ふのが、最も生きがひある、最も光榮ある事業だといふことを信ずるに相違ありませぬ、（十二月十日）

鍋山貞親

振返つて見て、別に心機一轉、敢然身を革命運動に投じたと言ふ劇的な動機を思はす過去は、僕にはありません、唯九歲の幼時から陰慘な職工生活を強ひられ、極度の窮乏不具と、卑屈な性格を背負つて靑年となり、若し、然る內に何時とはなし勞働運動の渦卷の中に入つた迄です

三和一男

金持のドラ息子は中學に行つて落第してゐます、それでもお坊つちやんですぼくも小僧にやられてコキ使はれてどん／＼と犬コロ扱ひです、ぼくはこれを甚だ不都合だと思ひました、何とかもつと工合よくはいかないものかと子供心にいつも考へさせられたことでしたその頃から、ぼくは一箇の社會改良主義者になつてゐたのです、その後社會の實相をハツキリ見るやうになり現社會組織の不合理もわかつて來ると小さい社會改良主義者は幻滅に遭遇せざるを得ませんでした

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

赤鞭

普選に面せず

或る百姓の寢言

群馬　松村無學

復興した農民運動を讀んだ、何處も同じで同紙もその大半は、政治運動論―政黨の樹立論―でうづめられてゐる、中央在住の闘士諸君は御多忙な事だ、併し、中央の變澤常なき無定見にあきれて、所謂御名士諸氏の仰せられる政治的訓練のない吾等小作人はその去就に迷ふ事甚だしい。

御存じでもあらうが昨年九月縣會の總選擧前は農民運動は筆を揃へて、小作人側より縣會出馬の不利と不都合なる所以を、刊を重ねて主張された、曰く「時期尚早なり」曰く「內面的に陣容を整へよ」曰く「町村自治體と府縣會は幾多の黑所がある」曰く「個人的野心の爲めに小作人を踏臺するブローカーを警戒せよ」曰く「組合の充實と政治教育をせよ」と、仰せ御尤もと吾々も極力縣會出馬の不都合なる所以を小作人間に說いた、然るに何ぞや一夜明くれば白妙の雪ではないが「惜しくも落選した縣會議員候補」だと又「普選が敷かれる早く政黨組織の準備をせよ」だと、旦に夕べに猫の目の樣に變轉として變節し、改論し、之れがコンミニストのタクチックと乙におさまり返つた所は、天晴れ名題の闘士諸君だ、立つな出るなと力を盡して引止めた縣會議員の候補者が落選した所で「それ見た事か」と來るべきを、「惜しくも落選」とは受取れぬ、縣會選擧後の教訓も「運動費の不足」「政黨のないこと」など簡單に片付けてもらつては迷惑だ。

第一單な組合運動はやたらに農民の貪慾心をそゝつて、それは引いて農民を目先の利益のみによつて行動させる。

第二農民の團體組織は利害一天張りで階級的自覺に基いてゐない。

第三農民團體と團體との間には組織と統一と連絡がない。第四團體の統制は殊に個人的野心家に容易に左右されてゐる。

第五戰闘力の養成には悛戰と順序とを誤らず、あわてず、いそがず、おもむろに、農民の特殊性格特殊事情を深知して、運動をすゝめる事。

組合運動の本質は生活條件の改善だ、小作料の引下げだ、「組合を作れ、一升五合の引下げは請合だ」之れでは五十錢よりは一圓、一圓よりは二圓、一錢でも餘計に運動費を出す候補者に、投票を與へるのは何の不思議もない、單純な組合運動の前には敵も味方もないのだ、只利害之れ唯一つの羅針盤だ今更云はずもがなではあるが組合組織は組合本來の目的を充足する爲めよりも解放運動の單位たる可き事を理を正だし、力を盡して、繰返し繰返し說いて貰ひたい。

普選が實施される政黨を組織したつて、政治教育はおろかな事組合の郡聯合も目鼻はつかず！たゞさへ群馬、岡山、新潟の一部に郡聯合が出來てるにしろそれは九牛の一毛だ―尙又小作人外の地方の多數の無產者の團結は殆ど迷夢の中にある今日、而かも權兵衞內閣の普選提唱は空文らしい今日、吾々小作人はあはてちやいかぬ「政黨なくして政治運動をやる事は空中にぶら下つて高飛びをやるようなものだ」そうだが何等の用意も何等の教育も出來なくて政黨組織で騷ぎ廻わるのはそれは「翼なくして空中に舞上がらんとする」に等しいものではなからうか、心棒が動いては米は搗れないのだ、在京の御名士諸君よ！、未だ普選の實施される迄には三四年はかゝるゆつくり落ちついて、物の順序を考へて手ぬかりのない樣に願ひたいものだ、全國の小作人諸君よ！今から政黨綱領の穿鑿や代議士候補の人選など鬼が聞いたら笑ひますぞ、先づ組合內部の整理と縣聯合から全國的體結への發展並に地域的政治團體單位の組織とに努力して、十年一と昔と云ふが、五年一と將來の計を立てようではないか

不思議な會合

岩手　野村策治

盛岡市で今度、縣立農學校市外移轉問題が起つた、すると盛岡市長は不思議にも急に縣下の地主、銀行家、商業家等二十名を市役所に集めて、農學校敷地を拂下げするの可否、拂下げ後の處分等を相談した、その結果どうなつたかは知らぬが、隨分不思議な會合もあるものだと思ふ。

一體市會とか參事會とかは何の爲に存するだらう、市の役員でも何んでもない縣全體のブルジョアと共に相談する何の必要があらうか

恐らくは市長はこのブルジョア連の決定さへ得れば市會參事會や市民はどうでもいゝと云ふ魂膽であらう以て市政とか云ふものがブルの支配下に屬し、又市長とはブルの番頭であると云ふ事が最も明白に示されてゐる事を知るべしだ

尙、縣や市の一小事件であつても大きな目を開いて見た時、斯の如く公然と行はれてみると氣づけば、國政なども只管ブルジョアの獨裁下に國民はその權利を蹂躙されてゐる事が出來る、且爲政者と云ふ者は悉くブルジョアの番頭である事が明かだ。

今や地方無產青年は着實に郷里の運動に從事し、桁も震災前の直譯的言動を慎むべき時であるから云ふ地方の時事問題を捕へて地方支配階級の權威を叩き壞す事も必要ではあるまいか。

國士廿粕某の正體

第〇〇聯隊　神山　微

自稱國やエセ愛國家の所謂「國士」甘粕某が福田狂二君をやり損れたとは愈々醜劣だが誰も氣づかぬらしいと思ふ點で十一月の上旬の東京日々新聞の「雜記帳」欄に「甘粕は澁谷にゐた時レストラベで泥醉し大暴れに暴れて硝子やコップ等を壞すこと數度、レストランから蛇蝎の如く嫌はれてゐた」と云ふ事が書いてあつた、僕が丁度彼が中尉の時同聯隊に勤務してゐたが部下に對して慘忍苛酷であり乍ら

上官に對してはそれこそ猫の如く、部下一同からも同僚からも排斥され誰も口を開くものが無かつた、兵卒諸君は「ボロ粕中尉」と綽名してゐたものだ。

その反感は遂に高まつて、除隊日の前、丁度彼が當直に當つてゐた夜除隊兵諸君から散々毆られた結果九日間程、病氣だと云つて缺勤した、その後一ケ月遂に大尉に昇進して轉任してしまつた、同僚

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も兵卒諸君も「一級昇進してもこの聯隊にゐなくなつたのは痛快なことだ」と云つて歡聲を擧げた。

その「ボロ粕」が今度念に、たとへ一部の奴からでも「國士」に祭められゐるかと思ふと、白野聯盟とか減刑嘆願書なんかを作つた奴の顔を見たい、あの除隊兵に毆られてブクブク南瓜みたいに顔を腫らしてゐた當時のツラツキを寫眞にして新聞へでも出したら大分さめかけた國士熱も忽ちどこかへ消えてしまふだらう。

より抜きのタヨ知事

仙臺　渡邊武雄

「進め」十二月號北原氏の「地獄と社會主義」の一節に「より抜きのヨタ者非染大佐」の話が載つてゐたが宮城縣には「より抜きのヨタ者」の知事力石雄一郎がある、あの非染と同じやうなこと九月十二日の河北新報へ書いてゐる。

「鮮人の蔭には果せる哉、ロシアの過激派と連絡した社會主義者の一群のあつた事が自分が見舞に上京して確かなる筋から聞いた」さうだ、して見ると「確なる筋」ではあの鮮人暴動説をロシアの手引だと確かに思ひこんでゐた者が多かつたに違ひない、非染大佐や力石知事は大ヨタ者の末裔である事がわかる。

縣青年團長、處女會長何々總裁何々會長を背負ひ切れぬ程持つて訓示や教訓を與へられてゐる知事の頭は如斯。

政治運動が叫ばれて來た今日地方の青年はこんな知事なんかに嚴重に抗議したいものだが本縣に有力な團體の無い事は殘念である。

塚崎、田山辯護士の尻馬に乘りて

岩手　横田義重

十一月二十五日の報知新聞に檢察官の甘粕殺刑論に對する塚崎、田山兩辯護士の甘粕無罪論が載つてゐる塚崎、が甘粕は熟慮斷行したと頻りに述べてその低能振りを發揮してゐるが田山に至つてはその殺人辯護法は塚崎に比べて遙かうは手である、曰く

「本件を斷ずるに當つて、第一に注意しなければならぬ事は、未曾有の大震災に際して市民は茫然として常識を失する道德も法律も其の威力を得なかつたのである、かゝる場合に行はれた犯罪は、重刑に處する事は最も研究を要する處である、……本件は甲なる思想と乙なる思想との爆發から起つた犯罪で、思想とか性とかに關する犯罪は往々人を狂的ならしむるものである、……無政府主義はどうしても我國體と相容れないものであると考へる、殊に軍人は皇室を守り國家を保護するもので、皇室を尊重し、國家を守るは軍人の專有物ではないか、……此信念に基き過般の如き震災に於て、流言を誤信して犯罪が行はれたのであるから、犯罪に對する責任は負はなければならぬが、責任の範圍に於て大いに留意しなければならぬと思ふ」

即ち塚崎辯護士の所謂「熟慮斷行」は田山辯護士の國語に翻譯すると「流言を誤信して爲されたる「狂的」「犯罪」となる。

資本主義の「國體と（不思議にも）相容れない」ところの「無政府主義」などの輩の手から「國家を守る」のは「軍人の專有物」である、殊に「性……に關する犯罪は往々人を狂的ならしむるものである」それと同じ樣に「思想……に關する犯罪」も「往々人を（頭つて）狂的」とする！此處などは最も「軍人の專有物」でなければならぬ。

斯樣に、田山辯護士に依れば、甘粕等の殺人事件は、醉漢が「流言誤信して」情婦を斬るが如く、「狂的」に爲されたものであつた！從つて田山辯護士は之に「輕き刑を課するのが至當である」と主張するのである、併し乍ら「輕き刑を課」すべきであるか、それとも無罪にして癲狂院に送るべきものであるかに就ては、田山辯護士たるもの十分に「留意」致されることゝ思ふ。

甘粕大尉を難ずる者は誤つてゐる、大尉は正氣でやつたのではなくて、「狂的」にやつたのである、序での事に、水平運動などと騷ぎ廻る不逞の民―之も「狂的」に絞め殺してしまへ。

俺達も人間だなどと喚く狂氣染みた亡國民―之も「狂的」に絞め殺してしまへ、ストライキなどをして資本家の搾取に反逆する勞働者（勞働者の本分を忘れたる此の非國民）―之も「狂的」に絞め殺してしまへ！小作人も社會主義者も露西亞人も、みんな大震災の「一小餘波」として「狂的」に絞め殺してしまつた方が好い、さうすれば、殺された者共に對しては「非常に同情」するだけで濟むのである。

そして之等「狂的」の下手人に對して我々は當然、無罪か少くとも減刑かの運動を起さなければならぬ。

小兒まで殺す此の勇敢なる國士此の軍刀崇拜者、此の學問的低腦兒の減刑を提唱することは、獨り有田音松君にのみ委して置くことは出來ぬ。

夫に代りて

群馬　菘田さだよ

御見舞狀有難く拜見致しました、悟は震災後引續き獄屋生活で目下は人間の全ての權利を奪はれ、御返事すら認める事が出來ませんから責任上私から近況を申上げます

わけても無智な警察官は震災當時から一通りならぬ周章てかたで縣下の同志十四名を未決監に放りこんでしまひました、未決に入つてゐる同志は悉く接見も書信も差入も禁止で既に三月も豫審中とは實に何んと云ふ亂暴さでせう。

やがて上州名物の空つ風と共に颶風の如く起つて來るのは何？

その曉にはきつと多くの同胞の胸を刺戟する何物かを與へる事と信じます、私は正義の爲かく迄熱狂してゐる同志に對する支配階級の惡逆振りを見ては愈々〇〇を思はずにゐられません。

今やプロレタリアにとつて最都合よき利用機關たる普選を目前にして、私等の活動の範圍は擴張されました、幸に「進め」社の御健闘を祈ります。

投稿歡迎

「赤穎」原稿を募集す。

數字は二百字乃至三百字。

纏つた地方時事問題の小論文たる事

宛名は進め社編輯部、必ず「赤穎原稿」と朱書せられたし

龜戸署で軍隊に刺殺された九人の同志に對する見舞金の醵出者の芳名は二月號で發表する。

進め社

會計係

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

編輯を了へて

■不安と混乱との大正十二年も見に角コンミニストの滔々たるリベツ化の流れに進み終末を告ぐるかのやうであつたが、押し迫つてからの突發問題で、山本内閣の總辭職らしくなり、普選もどうやら、怪しくなつて、場合に依つては、リベツ化どころの騒ぎぢやなく、過激法案などに依つて無産階級に搏撃して來さうな支配階級の一群が虎視眈々と覗ひ出して一層の不安と動揺の中に、新年を見る事となつた。

■無産階級の大衆は新年だと云つて、貧しい財布を空にして雑煮を食つては又次に來る米代の心配をし一群の無産階級は險惡なる鐘を行を眺めては、血染れの體を打ちふるはして、深き決意を漲らして居る時、支配階級の一群は、美酒に酔ひ、緑蔭に痴れて、無産階級の血と汗の生産物を浪費し盡して居る、又一群は自家階級の永遠を計らんため、又は互の政權奪取のため陰險な謀略に暇がないらしい

■何々元老、何々僚士が楼閣の上で政權爭奪に戰つてゐる時我が「進め社」は改年と共に愈々旗色を鮮明にして大正十三年の階級闘争の第一弾を發する事が出來たのを喜ぶ

■新に同人として彼のヨツフエ氏の秘書として、又、米露に亘つて共産黨員として活動してゐた田口運蔵君と、穂蒔き社の同人として、筆に腕に縦横の才幹ある小牧近江君を本社同人として迎へ得た事を本社の為にも、無産階級の全戦線のためにも慶賀に堪はない田口君は読者に、小牧君は穂蒔き社復興に餘念がない、兩君の玉稿に依つて本號は一段と光彩を増した事は欣快の至りである

その他新に數人の同人が入社したその人達の色々の立場から當分發表を見合せて置く

■前號に發表した通り、東京市外に支局を設いたが今度東京市内の左記に支局を開設した

赤阪區榎阪町四

岡陽之助君が專ら支局事務を執る事になつた

都合の良い方は大きな家であるから時々快談に行かれん事を望む「進め」も勿論取次ぐが直接に求めらるゝ人以外郵送は取次がない

■北原龍雄君は別項廣告の通り愈々數年間の篋底に藏し、貧困と迫害のどん底にあつて、加筆訂正慘憺たる苦心の結晶、一社會主義政治學」を上梓する事となつた同君は今更こゝで提灯をもつ迄もなく、本邦のコンミニスト陣笠中の俘數人者であり殊にその潔癖性か人らしてオツポオチユニズム化運動は大嫌ひな男である或はリベツ化運動が極端な反動時代の現出かと云ふ時機に當つてこの著者のこの著書は深甚なる意義ある事と思ふ

■舊年末に當つて六月例の共産黨事件で市ケ谷刑務所の未決監にて七ケ月も呻吟してゐた、堺利彦、小野阪鐵、田所輝明、吉川守邦、小岩井淨、仲曾根源和、西雅雄、渡邊滿三、高野武二の諸君が保釋出獄になつた

これらの闘士が筆を揃へて論壇に街頭に戰を開始する日も遠くはないと思ふ、半蔵前の壯觀が再び現出するは敢へて本社のみではないと信ずる

■本號は十二月二十日頃迄に出刊の豫定であつたが別項記載の如き財政難と又印刷所の都合でかくも遲延した事を讀者諸君に謝さなければならぬ

且原稿が輻輳し、田口、岡、栗、その他の諸君の原稿は二月號に廻すの餘儀なくせしめられた

二月は本誌創刊一週年に當るから紙數も増し、同人一同も奮闘し必ず立派なものを出したいと思つてゐる

■尚原稿を郵送さるゝ諸君は必ず進め社編輯部と明記されたい

會計も編輯も個人宛のものは事務を取運ぶに困る事がある

■雪か雨か將た暴風雨か、大正十三年の幕は切つて落された讀者諸君の自重を望む

（横田忠夫）

會計係より

十二月は注文が殺倒して賣切れの盛況を呈した。賣切れはしたが誌代は拂はぬ人が多いのにはいつも乍ら困る。今月號から無代贈呈は一切廢した。五部、十部と云ふ注文に對しても前月分を拂はぬ人には直に發送を中止する事にする。

尚希望として左の各條を記して置く。

（一）誌代に關する問合せ、雜誌注文に際しては必ず傍書に會計係と附する事。

（二）會計用は一切個人宛にせぬ事。

（三）本社は集金郵便を一切取扱はぬ事を承知して貰ひたい。

（四）「進め」誌代と他雜誌の誌代とを一緒に送り他社へ殘金は送つてくれと云ふやうな注文は一切取扱わぬ事

（五）住所氏名は明瞭に書くこと。

（六）見本注文の方には一部は注文に應ずる。

（七）誌代拂込は可成振替にし振替の都合惡き時は五厘及一錢五厘の切手を用ふる事。

少數社だより

▼「政治運動研究」の發行がおくれて、期待して吳れる諸君には何とも相濟まない、申し込みがドシく來るので、少なからずあせつてゐる

▼たとへカユをすゝつても、必ず出さうといふのがぼく等の意氣であつた。その意氣は、未だぼく等の胸を去つて居らぬつもりだ

▼北原君もぼくも始終、身を浪々の旅に托してゐる。相語る日は極めてまれで、常に東西南北に馳せ違つてゐる

▼時に、旅の空から一葉のハガキをとばすが「ぼく等の心は絶はず少數社の此の企てにもどつてはりつめる」などとハガキをとばすが…

▼昨夜、内閣瓦解の報を受けた時局は刻々として眼前を轉廻する愚にもつかぬことゝ笑はれ相だが（要路を舐めて）みたくもなる

▼社などと仰々しいが、少數社は彼とぼくと二人から成る、看板の掛け場まで轉々として定まらなかつたが、此程、左記へ落着いた

東京市赤坂區榎坂町四

▼大正十二年もあと二日だ、此の分ぢや十三年の新年は大阪で迎へることになるらしい

▼北原君もやつて來た、年頭大いに社運の隆盛を計りたく思ふ、何か知らぬが目茶苦茶に何かにぶつゝかつてみたい

▼歳晩の街上、校正からの歸りがけ、夜更けの空を仰ぐ、何か悲壯な氣持がこみ上げる

（岡　陽之助）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

營業科目

呉服
木綿
半衿帛紗
風呂敷
夜具布團
蚊帳
御祝飾品
洋服
外套
コート
婦人服
洋服附屬品
帽子
ステッキ
洋傘
ショール
シャツ
ハンカチ
靴鞄
貴金屬
時計
美術品
化粧品

藥品
小間物
袋物
下駄、傘
子供洋服
子供用品
文房具
玩具
運動具
和洋樂器
蓄音機及レコード
書籍雜誌
寫眞機及材料
茶鰹節
菓子
食料品
和洋酒
和洋食器
和洋家具
電氣器具

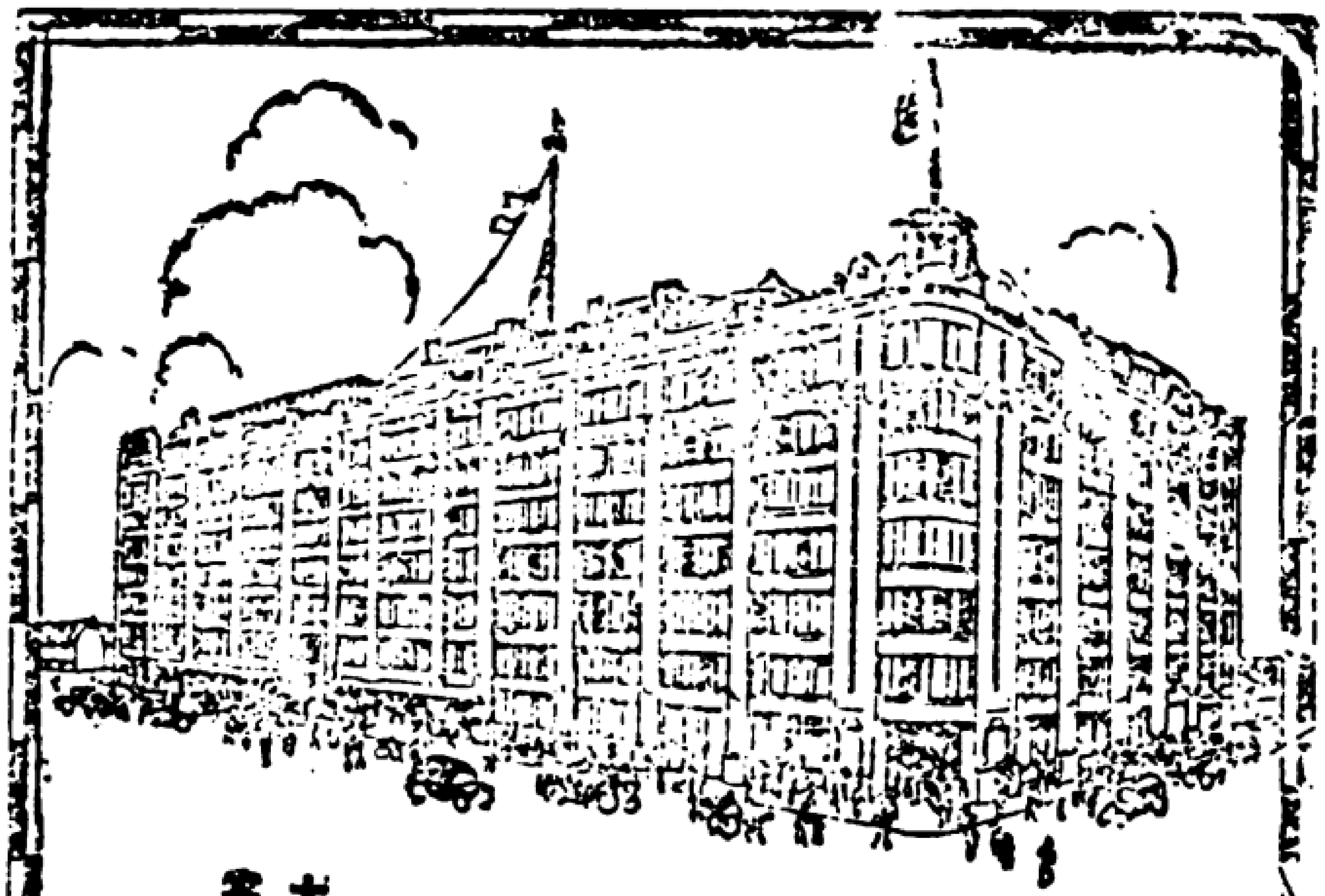
商品券
受けて重寳
贈るに便利

買よき店

白木屋呉服店

安く賣る店

大阪 堺筋



「趣味と實用」

この頃の三越は「趣味と實用」とを標語として、凡ゆる文化生活の必需品を精選し、只管「品が良くて値が廉い」といふ御好評にそむかぬやう努力いたしてをります、一層御愛顧のほど偏に希上げます。

遠方からの御注文は御手紙にて「通信販賣部」宛に願ひ申し上げます。

大阪 高麗橋

三越呉服店

森永ミルクキャラメル

森永ミルクチヨコレート

森永ゼリビンズ

森永ミルクココア

森永ミルク（煉乳）

森永ドライミルク（粉末牛乳）

◆同じ電氣料で◆

マツダ瓦斯入電球

◆光力倍加◆

金、銀

白、金

東京市神田區松田町

徳力本店

產前產後

血の道

引風、冷込

等に特効有

▲全國到處に販賣す

婦人良薬

喜谷實母散

本舗

東京京橋區中橋大鋸町

喜谷市右郎衛門

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

北原龍雄

社會主義政治學

社會主義政治學の名は社會主義經濟學に模倣して得た。社會主義經濟學とは、資本論に依つて論述せられたる、マルクスが經濟學說の大衆的名稱である。それは實に既往の人類が持つた最大の革命兒をして、半生の心血を凝集せしめし所、爾來プロレタリアの階級精神に不動の重心を與へたる、近世科學界の一大巨峯である。私が今、自分の小著の名をそれに倣ふは、許すべからざる潛越かも知れぬ。

併しながら既有の政治學が、すべて政治現象の表相のみを捉ゐその內部の成素には殆んど觸れ得て居ないに對し、此の小著は政治現象を內部的特質より分折する事を試みた。又既有の政治家が政治現象と社會進化の法則との關係には全然盲目であつたに對し、此の小著は政治の特質と社會の經濟組織との間に橫はる有機的錯綜を見出し、それに依つて、原始共產制より高度の文化共產制に向つて行進しつゝある經濟の世界に表裏して、政治の世界も亦原始社會に於て持ちしその特質を將來の社會に再現せんとしつゝある必然性を指示した。こゝに近世國家の廣大なる搾取關係を支持せる資本主義的政治が、資本主義自體と倶に自働的破綻の步を進め行く推轉の看取も含まれてゐる。此の企ては、マルクス經濟學說が社會主義的歷史觀の經濟學的部面を完成したに對し、その政治學的部面に一指を觸るゝものではないであらうか。それを思ふて誇大を恐れつゝも、敢て社會主義政治學の名を選ぶ事とした。

思ふに、始めて政治運動の門扉を叩かんとせる日本の勞働階級は今新たに階級的政治行動の原理を要求してゐる。私は此の書に依つてその一端に答ゐたいと心願すると倶に、又此の書に依つて階級鬪爭の學理的戰線に一陣笠たらん事を期するものである。（著者）

近刊 ◆定價壹圓五拾錢 送料拾貳錢 ◆進め社でも取次いでやる ハガキにて申込みを乞ふ

北原龍雄著

街頭の資本論

定價壹圓貳拾錢送料拾錢

世に多き、資本論解說書の一つである。何しろ僕等の仕事だから、勿論いゝ加減のものであるが、たゞ二つだけ特徵を持つてゐる。それは、資本の集積と集中の理論（それが『資本論』の大黑柱だが）を說明するに日本の產業界に於ける事實を以つてした事と『資本論』の紙背に流るゝ戰鬪氣分を寫し出すに骨を折つた事とである。これに依つて、或は此の書にも一人前の生存權が與へられやうか。

私等は街頭の政治運動を熱唱するものだ。願くは此の書、街頭大衆のポケットの中で、社會革命の理法をさゝやかん事を。

東京市外高田町二三 振替東京四四三八八六

科學思想普及會

◆社會主義
◆社會問題
◆勞働問題
◆婦人問題

圖書雜誌

販賣

本店　神戸市湊川町二丁目十六番地
上西書店

支店　神戸市湊川公園前百貨店前廿一號
上西一郎

大正十三年一月一日發行（毎月一回）定價一部十錢 一年一圓 發行所 大阪市北區西野田大開町一ノ九三（振替大阪六九〇七二）進め社